

善隣

No.515 通巻782

2020年（令和2年）10月1日発行（毎月1日発行）

2020 10



善隣 目 次

2020年10月号

公開講演会記録

- 中国・香港・台湾における
ネット普及が報道・言論の自由に与える影響山田賢一 2
- 渋沢栄一と日本近現代史 (1)大川時夫 10

- 陶々俳壇**馬場由紀子選／馬場由紀子 21

会員彼是

- 台湾医療事情
—新型コロナ拡大を防いだ台湾の医療制度とは.....松島めぐみ 22

- 中国ウォッチング**編・訳 上松玲子 26

自著紹介

- 『舞鶴に散る桜—進駐軍と日系アメリカ情報兵の秘密』...細川呉港 30
- 協会通信・会員だより・同好会だより 32
- 2020年10月の行事予定 33

- みんなの写真館** 32
(姜晋如、佐藤嘉信、原田克子)

善隣 第515号 通巻782号

2020(令和2)年10月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会
TEL 03 (3573) 3051
FAX 03 (3573) 1783

発行人 矢野一彌
編 集 原田克子
校 正 朝 浩之、福富和美
印刷所 (有)おんプレス
定価 一部400円 年額4,800円
振替 00120-0-145956
国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345
©禁無断転載

当協会は、中国ならびに近隣諸国との相互理解を深め、友好親善・交流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

中国・香港・台湾におけるネット普及が報道・言論の自由に与える影響

NHK国際放送局 山田賢一



インターネットの普及は世界中で起きている現象だが、いわゆる「中華圏」を形成する中国本土（以下、中国とする）及び香港と台湾は、ネットの普及とそのもたらす影響が、それぞれ世界の他の地域とは異なる特徴を有している。以下、3地域それぞれについて、ネット普及の経緯・現状と、それが報道・言論の自由にどのような影響を与えていたのか見てみたい。

I 中国
中国では、政府の批准を受けて設立された、インターネットに関する管理や調査を行う機関である中国インターネット情報センター（CNNIC）が、1997年10月に初めて国内のネット人口を調査し

た。このときのネット人口はわずか62万人だったが、その後中国ではネット接続の費用が急速に低下したこともあって、2002年末には5910万人、2007年末には2・1億人、2012年末には5・6億人、2017年末には7・7億人、そして2019年6月末には8・54億人（普及率61・2%）に達した。また、ネットの「携帯化」も急速に進み、2019年6月末の携帯ネット人口は8・47億人と、ネット人口の大部分が携帯を使っている。CNNICの統計によると、中国人が何のためにネットを使っているかについては、ウイーチャット（LINEに似た中国版のSNS）を含むインスタント・メッセージが96・5%と最も多く、以下ネット動画（短尺物を含む）が88・8%、

検索が81・3%、ネットニュースが80・3%の順で、中でもすでに利用率が下降を始めた検索やネットニュースに対し、ネット動画の急成長ぶりが目立つている。

ネットと報道・言論の自由の関係だが、中国ではテレビ・ラジオ・新聞などの既存メディアは従来から共産黨の厳格な統制下にあった。一方ネットは新興のメディアで、管理・統制が既存メディアほどは行き届かない面もあったため、その世界における自由度は当初から既存メディアより高かったといえる。例えば2003年2月9日に新浪（ヤフーのようなポータルサイト）には、「CCTVを分割せよ！」という記事があった。その内容は、中国で唯一の国家级テレビ局である中国中央テレビ（CCTV）による国内テレ

ビ市場の独占を厳しく批判し、通信会社や航空会社と同様にCCTVを分割して競争原理を導入すべしというものである。

しかしCCTVが独占的地位を享受しているのは、中国共産党政権のメディア統制政策に沿ったものであるので、CCTV分割論は実は政府の政策を批判していることに他ならない。既存の大手メディアには決して載らない文章だと言えよう。

こうしたネットの特性によって、中国では2003年頃から以下のような報道・言論の自由に関わる事件が多発した。

①孫志剛事件 武漢の大学を卒業し、仕事のため広州に来たばかりの孫志剛さんが、身分証明書を携帯していなかったため広州市公安局に連行され、収容所で死亡したもの。死因に不審な点があるとして広東の『南方都市报』がスクープし、新浪網や搜狐網など人気のポータルサイトにも掲載されたことから世論の圧力が高まり、中央政府が浮浪者収容制度の廃止に踏みきることになった。しかし中央政府の叱責を受けメンツをつぶされた地元当局は、南方都市報の幹部を“汚職容疑”で逮捕した。

②焦国標事件 北京大学の焦国標副教授が2004年3月、「中央宣伝部を討伐せよ」と題した文章を友人に配布したと

ころ、誰かがその内容をネット上に掲載し、広く転送されたもの。焦氏は北京大学での仕事を失った。

③『水点週刊』事件 中国青年報傘下の週刊新聞である『水点週刊』が2006年1月、歴史学者で中山大学の袁偉時教授の文章を掲載したところ、義和団の野蛮性に言及した部分などがネット上で民族主義者から激しい批判を浴び、以前から『水点週刊』の内容に不満を持つていた共産党中央宣伝部は、これを機に同紙に対して停刊処分を下した。しかし李大同編集主幹は停刊と自身の更迭処分を聞くとともに公開抗議文を発表して反撃、世界的なニュースとなつた。開明派知識人が李氏を支持したこともあり、『水点週刊』は袁偉時氏に対する反論を掲載することを条件に復刊が認められた。

④「08憲章」事件 のちに獄中でノーベル賞を受賞することになる劉曉波氏が中心となって起草し、300人以上の関係者が署名した、言論・出版・集会・結社の自由や民主・人権・平等などの理念を訴える文章で、劉氏が当局に勾留される直前にネット上で公表された。その後劉氏は国家政権転覆扇動罪で11年の刑を受け、獄中で重病にかかり、釈放後まもなく死去した。

また、2009年ころから、マイクロブログとも呼ばれる「微博」（中国版ツイッター）が中国で普及し始めると、事件事故などに関する一般市民の情報発信が活発化した。2011年には温州の高速鉄道脱線事故が起きたが、列車に乗り合わせた客が微博で一報を発信すると、主要メディアも一斉に取材に動いた。この過程で脱線した車両を地面に埋めようとした、当局の隠ぺいと思われる行為も暴露され、世論は沸騰した。また2012年には、北京の豪雨災害で、市政府が当初明らかにした3人という死者数について、ネット上で疑問の声が噴出、その後抛となる自らの見聞きした体験が次々にミニブロガなどにアップされていった。豪雨に関する2回目の記者会見の際、スポーツマンは死者数についてコメントを避けたが、会見終了後にCCTVの女性記者が大声でスポーツマンに対し、「あなたの手元にある資料を見た。死者数は61人と書いてあった」と述べ、その後当局は急きよ大幅に増えた死者数を発表した。

さらに、既存メディアの記者の中から、所属するメディアで報道することが認められなかつた記事や情報を、自らの個人ブログに載せる者も出てきた。2012

年に筆者がインタビューした中国青年報の包麗敏氏によると、包氏の周囲のジャーナリストには、「政治的に「敏感」な問題の部分を個人ブログに書く人も多く、デスクに削られてしまった部分をブログに載せるという面がある」という。また、こうした記者に対する編集長の態度は、問題視しない人と文句を言う人に分かれると包氏は説明した。文句を言う根拠は「会社の金で取材しているくせに」というもので、ブログへの執筆が不許可になるケースもある他、特に大きな事件の場合、削除部分をブログに載せると反響が大きく、後で責任を追及される可能性があると包氏は指摘した。

こうしたネットの普及で加速した報道・言論の自由をめぐるジャーナリストと当局のせめぎあいは、2012年に習近平が総書記となつたことで、新たな段階を迎えた。習近平は当初、「権力を制度の籠に閉じ込める」「党外の人は本当のこと話をしてほしい」「共産党は先鋭な批判を容認すべき」と「百家争鳴」を思われる開明的な発言をしていた。しかし2013年5月に表面化した「七不講」事件（普遍的価値、報道の自由、公民社会、公民の権利、中国共産党の歴史的な誤り、権貴『権勢があつて高貴な』資産

年）によつて、習近平のこれまでの発言はあたかも「反右派闘争」の序曲に過ぎなかつたようにも見えた。さらに同年8月19日には、習近平が重要講話の中で、「一部の反動知識分子がネットを使って党の指導を攻撃・侮辱している」と発言、文化大革命終結後はほとんど目にすることのなかつた「反動知識分子」という言葉が使われたことで、中国の民主派知識人を震撼させた。そしてその直後から「大V」と呼ばれるネット上のオピニオンリーダーが次々に拘束され、同年9月には「ネット上のデマが500回転送されたら刑事犯罪を構成し、投稿者を最高で懲役3年の刑に処する」とする、最高検察院と最高人民法院連名の法解釈が公表された。しかし微博などに書き込んだ情報が何回転送されるか、そして何回読まれるかは書き込んだ本人がコントロールできないものであり、この解釈はネットユーザーの間で大きな反響を呼んだ。あまりに荒唐無稽だとして、「自分の気に入らないやつの書き込みを500回転送して、罪に陥れよう」「私は共産党を愛しています。これはデマなので、500回転送しない

階級、司法の独立の7つの事柄について語つてはならないという共産党中央の指示が大学などに伝えられたもの）によつて、習近平のこれまでの発言はあたかも「反右派闘争」の序曲に過ぎなかつたようにも見えた。さらに同年8月19日には、

よう読者にお願いします』などと法解釈を風刺する書き込みも相次いだ。

このようにネットへの統制強化を図る中国政府の考えが良く示されている文章が、中国共産党中央党校の発行する雑誌『中国党政幹部論壇』2013年9月号に掲載されていた。この文章は中国社会科学院新聞與伝播研究所の劉瑞生副研究員による「微博意見領袖之影響與対策」で、この中では微博におけるオピニオンリーダーの「大V」が、実は非常に少数の人間であることが示されている。例えば最もユーチャーの多い新浪微博では、2011年から12年にかけて注目を集めた出来事に関するコメントで、500回以上転送された文章はわずか7584件で、その筆者は2158人に過ぎなかつたといふ。一部の「大V」には多くのファンがつき、主要な人物9人だけで6200万人ものファンを抱えると指摘されている。そして劉氏は、こうした「大V」が往々にして扇情的な意見を述べ、特定の「事件」について微博ユーザーの「動員」を図つており、些末な話題が重大な政治事件に転化しかねないと警告している。さらに劉氏は、様々な世論調査の結果として、こうした微博における「大V」数百人のうち、西側諸国の価値観を共有する

「自由主義者」が絶対多数を占めた影響力が大きく、政府当局に近い「愛国主義者」は人数が少なく影響力が弱いと指摘している。そして最後に中国政府の対策として、微博の「大V」に対し、綿密にコミュニケーションを取ることで影響力を行使し、当局に友好的な言論を促すことが重要と結論付けている。

2013年に本格化した中国政府による報道・言論の自由への統制強化は、その後習近平への権力集中が進む中で厳しくなる一方で、最近は中国のジャーナリストと会っても悲観的な声ばかりになっている。中国本土では、ネットの急速な普及は、それによる報道・言論の自由拡大への脅威を感じた中国政府当局によって、当面はむしろ報道・言論の自由を厳しく抑圧する形となっている。

II 香港

香港でも近年、ネットの普及は急速に進んでいる。例えば中東の「ジャスミン革命」をはじめ、マレーシアでネットの普及がナジブ政権の汚職疑惑による政権交代に一役買ったことなど、ネットはこれまで社会の民主化・自由化を推進するものと見られてきた。しかし香港の報道の自由度をRSFの国境なき記者団が毎

年発表する国際比較ランキングで見ると、2002年に18位とましまずの地位を占めていたのが、その後一貫して下落し、2019年には73位にまで後退している。その背景には、「中国要因」があると指摘されている。

1997年に香港がイギリスから中国に返還されたあと、当初中国は台湾統一のために香港を「一国両制」の模範にしようと考へた。そこで英領時代の遺産である香港の「報道の自由」にはあまり干渉しない態度を取っていた。しかし2003年7月1日、香港で国家安全立法としての「23条立法」に反対する市民の50万人デモが敢行されると、状況は大きく変わった。当時人口700万人あまりの香港で、50万人というのは大変な規模である。中国政府は驚愕するとともに、その責任を“デモへの参加を煽った”香港メディアに押し付けた。そしてその後、香港メディアに対しても経済的な方法による「ソフトな干渉」を始めたのである。具体的な方法は主に以下の4つである。

- ①香港メディアの株式購入
- ②香港メディアのオーナーへの中国ビジネスでの便宜供与
- ③香港メディア幹部への特ダネ提供
- ④企業による広告出稿もしくは取り消し

このうち①に関しては、香港のジャーナリスト団体である香港記者協会が毎年報道の自由に関する発表している年次報告書の2017年版で、香港の主要メディア26社のうち8社について、中国資本が株式を取得したとされている。この8社とは、チャイナディリー香港版、大公報、文匯報、香港商報、フェニックステレビ、成報、サウスチャイナ・モーニング・ポスト（以下サウスチャイナ）、TVBだが、うち前の5社は元々中国共产党系のメディアである。問題は後の3社で、特に無料地上テレビ局として香港で圧倒的な存在感があるTVBや、外国人が中国情報を入手するときに重宝している高級英字紙のサウスチャイナの株式を中国資本が取得することは、香港メディアの報道に少なからぬ影響を与えると見られている。このほか2017年にはこの8社とは別に有料多チャンネルサービスのi-Cableも中国資本による投資が明らかになるなど、近年こうした動きは加速の一途である。TVBやサウスチャイナは以前から、親中派財界人がオーナーを務める中、中国報道が中国寄りになつていると指摘されてきたが、中国政府はより直接的な香港メディアの支配を目指しているようである。

②については、香港のメディアオーナーの多くが不動産事業などを手掛ける財界人であることを利用し、中国本土でのビジネスに便宜を図ることで中国報道を友好的なものにしようとしていると言っている。実際、2012年にデジタルラジオ局DBCが一時放送停止になつた問題では、最大株主で、広東省の深圳で不動産事業を広く手掛ける黃楚標氏が、辛口の論評で知られる女性司会者について「中聯弁（中国政府の香港出先事務所）が彼女に強い反感を持っている」と述べて却下する役員会での発言が、ひそかに録音されていて暴露されたこともあつた。また③については、2015～16年にかけて起きた銅鑼湾書店事件（中国政府に批判的な書籍を発行する銅鑼湾書店の幹部5人が相次いで行方不明になつた事件で、このうち4人はその後、中国当局に拘留された状態でCCTVや香港フェニックステレビのインタビューに登場し、罪を認めて懺悔していた。ところが幹部の1人である林栄基氏が釈放されて香港に戻った後の2016年6月、記者会見し、罪を認めた供述について「事前に原稿が用意されていた。その内容を記憶して話さなくてはならず、間違えたら取り直しをさせられた」と述べ、テレビでの

“自白”が強制された意に反するものだと証言した）の際、拘束中の書店関係者のインタビューを行つたメディアとして、中国本土のCCTVに加えて、香港のフェニックステレビや星島日報が含まれていた。このうちフェニックステレビは元々中国本土系だが、星島日報はもともと台湾の国民党に近かつたのが、1998年以来中国寄りにスタンスを変えた新聞である。中国政府はこうした「友好的なメディア」に特ダネを提供したり、要人の単独会見をセットしたりすることで、香港のメディア全体をコントロールしようとしているというのだが、香港のメディア関係者の見立てである。

さらに④については、香港でのメディアの広告収入の多くが金融・不動産関係の企業に依拠していることが背景にある。こうした企業はいずれも中国ビジネスとの関わりが深いのだが、近年は中国政府の意向を受けたとみられる広告出稿またはその取り消しが行われている。2013～14年にかけて、中国政府への忌憚ない批判で知られるりんご日報に対するHSBC、恒生銀行、東亞銀行など大手銀行による広告出稿が一斉に姿を消した。これによつてりんご日報のページ数は一気に6ページほど減少した。また無料紙

の「am730」についても、2013年の第4四半期から、中国銀行、中国建設銀行、中信銀行など中国本土系銀行からの広告出稿が急減、毎月の広告収入が最大で120万香港ドル（約1700万円）減つた。

こうした状況について、中国政府系のメディア人から証言が得られた。この人物によると、中国と香港のメディアの自由度は差が大きいので、今後は香港メディアへの管理を強化することで融合を図るという。香港メディアの“中国化”である。

香港メディアの「萎縮」ぶりを最も如実に表しているのが、サウスチャイナの“転向”である。サウスチャイナは1903年創刊の伝統ある英字紙で、共産党大会の人事情報など、中国本土の政治ニュースの特ダネを連発することで知られている。その“転向”を示したのは、2012年6月に起きた「李旺陽事件」であった。李旺陽氏は6・4天安門事件によって20年以上投獄された民主活動家だが、香港のケーブルテレビ局[+Cable+]が李氏を取材し放送したあとまもなく、入院中の病院で首を吊つた状態で発見された。その際、李氏の足は地面についたままだったことや、遺書がなかつたことなど不審な点が多かつたにもかかわらず、

当局は自殺と断定して火葬を強行したため、香港の各メディアは大々的に報道、中国政府への抗議デモも起きた。ところがサウスチャイナに関しては、担当記者が600字あまりの原稿を書いたにもかかわらず、王向偉編集長は自ら100字あまりへのカットを指示した。外国人編集者のAlex Price氏が王氏にメールを出して異論を唱えたところ、王氏は返事の中で「これは私の決定だ。もし君が不満なら、どうすべきかわかるだろう」と答え、Price氏が辞職する必要性を示唆したという。この件について筆者が王氏に対し、その対応に関する質問状を送付し、秘書を通じて催促もしたが返事はなかった。一方、香港記者協会ではこの問題を重視してサウスチャイナの関係者にヒアリングを行っていた。同協会の麦燕庭会長によると、王氏が「これは私の決定だ」と答えたメールの内容が編集部に広く知られて大問題になつたため、部内の会議で王氏が釈明をすることになった。その際王氏は、「当日、夜7時の中 国中央テレビ（CCTV）のメインニュースで報道されなかつたので、重要なニュースでないと思った」と説明、出席者の中には、あまりの荒唐無稽さに一瞬聞き間違えたかと思つた人もいたという。王

当局は自殺と断定して火葬を強行したため、香港の各メディアは大々的に報道、中国政府への抗議デモも起きた。ところがサウスチャイナに関しては、担当記者が600字あまりの原稿を書いたにもかかわらず、王向偉編集長は自ら100字あまりへのカットを指示した。外国人編集者のAlex Price氏が王氏にメールを出して異論を唱えたところ、王氏は返事の中で「これは私の決定だ。もし君が不満なら、どうすべきかわかるだろう」と答え、Price氏が辞職する必要性を示唆したという。この件について筆者が王氏に対し、その対応に関する質問状を送付し、秘書を通じて催促もしたが返事はなかった。一方、香港記者協会ではこの問題を重視してサウスチャイナの関係者にヒアリングを行つていた。同協会の麦燕庭会長によると、王氏が「これは私の決定だ」と答えたメールの内容が編集部に広く知られて大問題になつたため、部内の会議で王氏が釈明をすることになった。その際王氏は、「当日、夜7時の中

国中央テレビ（CCTV）のメインニュースで報道されなかつたので、重要なニュースでないと思った」と説明、出席者の中には、あまりの荒唐無稽さに一瞬聞き間違えたかと思つた人もいたという。王

編集長は中国の政府系英字紙「China Daily」に勤めたあとサウスチャイナに移り、2012年2月、従来は外国人か香港人のポストであった編集長のポストに、中国本土籍の記者として初めて就任した人物である。麦氏の説明では、王氏と同じく中国本土出身で当時の副編集長だった譚衛児氏（その後編集長に就任）は、中聯弁との関係が良好な人物で、英字紙での経験が少ないのでかかわらず、入社後まもなく副編集長に抜擢されたため、部下の記者たちから不満が出ていた。麦氏は、これまでサウスチャイナの通称として使われてきた「南早」（サウスチャイナの中国語名である「南華早報」の略）を、今メディア界の人たちは「紅早」（共産党のシンボルカラーは「赤」と呼んでいる、と述べた。

こうした状況を快く思わない香港のメディア人は、最近次々と“親中化”する既存メディアを離れ、新興のネットメディアを立ち上げている。典型的なケースが「852郵報」で、2014年に852郵報を立ち上げた袁耀清編集長は、元は信報という大手日刊紙の副編集長だった。信報では、2013年5月に陳景祥編集長がデジタル部門のトップに異動となり、7月には無料紙の「頭条日報」のネット

版の幹部だった郭艶明氏が編集長に就任した。彼女の就任後、信報の中身は親中派の文章が多くなったとされ、10月には、北京政府の意向に忠実とされる梁振英行政長官の肩を持ちすぎるとして大手テレビ局のTVBを批判した記事が、編集長によって削られた。これに抗議して、袁氏と3人の記者が一斉に辞職したのである。また、先述したデジタルラジオ局DCCの創設者である鄭經翰氏は、既存のラジオ局では言いたいことが言えなくなつたとして、免許が不要なネットラジオ局のD100を2012年12月に立ち上げた。このほか、ボランティアの記者が映像を撮影して既存メディアに無償で提供する「SocREC」、「本土（香港を指す）・民主・反共」をスローガンとする「MyRadio」、調査報道専門の「FactWire」、著名なジャーナリストが結集した衆新聞など、香港のネットメディアは雨後の筈のように林立している。現在香港のネットメディアは「報道の自由の最後の砦」とも言わ�る。その貢献度は小さくないが、問題はどのメディアも収入源が安定せず、明確なビジネスモデルが描けていないことである。したがつて世論への影響力にもおのずと限界がある。また最近は、中国政府も広告出稿を通じた香港のネットメディ

アへの圧力を強めたり、「親中派ネットメディア」の育成に動いたりしていると言われば、ネットの世界も中国の影響力行使から無縁とは言えない。

III 台湾

台湾でもネットの普及が急速に進んだことやネットメディアが林立している点は香港と同じだが、報道の自由度に関しては当初は同じように後退する傾向にあつたものの、その後盛り返した点が異なっている。RSFの年次報告書によると、台湾の報道の自由度は民進党政権時代の2007年に32位まで上昇した後、国民党政権時代の2013年に47位にまで低下したが、2016年に政権を奪回した民進党の蔡英文政権の下で再び上昇し、2019年は42位につけている。どのような経緯で低下→再上昇の道をたどったのだろうか。

台湾でも香港と同じように、メディアオーナーの多くが中国ビジネスを手がけている。その典型が、旺旺グループである。旺旺は、もともとせんべいのメーカーだが、中国市場に進出して多大な利益を上げる中、オーナーの蔡衍明氏は2008年、当時経営難に陥っていた大手メディアグループの中国時報グループから

経営権の委譲を受けた。中国時報グループは中国時報・工商時報・中国テレビ・中天テレビを持つクロスメディア所有の大手メディア事業者だが、旺旺の傘下に入った後、「中国をほめたたえる報道」が急増した。メディア学者からは批判の声が上がったが、旺旺は気にかけず、2010年にはケーブルテレビ最大手の中嘉網路の買収で合意し、さらに2012年にはこうした旺旺の膨張に強く反対していたりんご日報に対しても高額の費用を提示することで買収への合意を取り付けたのである。これに対して学生団体やメディア団体の間では旺旺の“メディア独占”に対する警戒感が一気に高まった。特にオーナーが香港人で台湾での様々なしがらみのないりんご日報は、政治家や財界人の不祥事なども遠慮せずにスクープを飛ばしていたため、旺旺による買収はメディア環境の著しい悪化をもたらすと指摘された。このため市民による10万人デモなど抗議活動が活発化し、旺旺は結局、中嘉網路とりんご日報の買収を断念せざるを得なくなつた。

もう1つの有名な事案として、2012年に起きた、三立テレビの人気番組『大話新聞』の打ち切りがある。『大話新聞』は鄭弘儀氏がキャスターを務め10年間続いた人気番組だったが、2012年5月に突然終了することが発表され、三立テレビには抗議の電話が殺到した。番組打ち切りの背景には、三立が中国にテレビドラマを販売したいという思惑があるとの指摘が出た。三立は台湾のテレビ局の中では最も経営状態が良い局の一つで、海外から安価なテレビドラマを輸入して放送するテレビ局が多い中で、自前のテレビドラマを多数制作する体力も有していた。しかし台湾の人口は2300万人あまりで、14億人近い中国とは市場規模が比べ物にならない。中国に番組を売られれば経営にとって大いにプラスとなるのは自明のことである。台湾のテレビドラマを中国に売るにあたっては、字幕が簡体字か繁体字かの問題はあるが、言葉の壁がないのは大きなメリットと言える。ただ問題は「政治」である。特に三立は中国と距離を置こうとする民進党に近いと言われているため、中国としては仮に三立のテレビドラマが魅力的なものであっても、無条件で「買います」とは言わないだろう。実は三立の『大話新聞』は非常にジャーナリストイックな番組で、「天安門事件」「ウイグル問題」「チベット問題」など、中国政府が嫌がる話題を取り上げることも辞さなかつた。そこで

番組の打ち切りが、三立の経営陣による中国政府への“おみやげ”ではないかとの疑惑が広がったのである。

この問題について、当時与党だった国民党の蔡正元立法委員（国會議員）は筆者のインタビューに対し、「中国の悪口を言えば、番組が売れないのは当然」と答え、三立による“自粛”を事実上認められた。また当時野党だった民進党的管碧玲立法委員は筆者に対し、「もともと民進党に近い三立や民視テレビも、テレビドラマを売るために中国を批判しなくなつた」と慨嘆の言葉を発した。

このように、台湾でも香港と同様に既存メディアが中国に徐々にからめとられつつある中で、それに危機感を持ったジャーナリストたちがネットメディアに活路を見出していく。筆者は数々のネットメディアを取材する中で、それらが大きく「ジャーナリズム型」と「社会運動型」の2つに分類できると考えた。

このうちジャーナリズム型には「新頭殻」「風傳媒」「關鍵評論網」「weReport」「端傳媒」「信傳媒」「上報」「報道者」などがあり、一方社会運動型には「苦勞網」「焦点事件」「上下游」「串樓口」などがいる。こうしたネットメディアが次々と中国を含む“タブー”に切り込むことで、

既存メディアも後追いをせざるを得なくなり、台湾のメディア環境改善に大きく貢献したと評価されている。では、同じように中国政府の圧力を受け、同じように報道の自由の空間が既存メディアからネットメディアに移行しつつある香港と台湾で、報道の自由度に大きな差が出ているのはなぜなのだろうか。

まとめ

香港と台湾で差が出ている要因はいろいろあるだろうが、究極的には現在の中本国土との政治的関係の濃淡にあると思われる。香港は1997年以降、中華人民共和国の一部であり、人民解放軍が駐屯している。一方台湾は少なくとも自前の軍隊を持ち、実効支配する領域と自前の政府を持っている。つまり、中国政府が香港や台湾のメディアに影響を与えるとする場合、香港に対しては「経済的压力」に加えて香港政府を通じた「政治的压力」もかけることが可能（例えば放送局の免許など）であるのに対し、台湾に対しては「経済的压力」しか使えないということである。もう1つの要因としては、台湾では1992年に立法院（国会）の全面的普通選挙が、また1996年には総統の直接選挙がそれぞれ実現し、

民意が政治に直接反映できる形が出来上がっていることがある。中国の脅威が強まれば、台湾の人々がそれに対して投票行動を持って「ノー」と表明することが可能なのである。一方の香港は、行政長官直接選挙は実現しておらず、立法会の選挙も一般の市民が直接選出できる枠は全体の半分に過ぎない「半民主」の段階にとどまっている。この差が、同じように既存メディアが中国の圧力を受け、ネットメディアがそれに抗している香港と台湾で現在、「報道の自由度」に違いがある要因と思われる。

ただ、台湾が今後とも継続して中国の圧力に抗していくことができるかは微妙なところであり、究極的には中国における現在のメディア統制が緩和され、中国の報道の自由度が上昇するサイクルに入らない限り、台湾と香港におけるメディア環境の根本的な改善は望みにくいと思われる。

（2019年11月21日、公開アジア研究懇話会）

筆者略歴（やまだ けんいち）

1962年3月23日、東京生まれ。
1984年一橋大学経済学部（応用課程）卒業。1984年NHK入局。

公開講演会記録

渋沢栄一と日本近現代史（1）

職業能力開発大学校名誉教授 工学博士 大川時夫



一、渋沢栄一と実業教育との接点

子爵渋沢栄一氏（以下氏の号、青淵と表記）が指導・斡旋の労を捧げられた企業、事業は数多あるが特徴的な例は大正9年に城北滝野川の飛鳥山別邸・曇依村莊の麓下台地に創立した府立商工学校であったと思える。同校はその後昭和10年に当時北豊島郡板橋村へ移転し、以来1世紀を経て令和2年には創立百年を迎える。幾変転を経て今は都立北豊島工業高等学校となり堅実な校風で卒業生は地元の産業界へ迎えられている。同校の特徴的学風については筆者の報告（1）に詳述した。ここでは、青淵がなぜ現役引退後に実業教育へ力を傾注したのかを追想し

ながら青淵の人生観を回顧してみた。

青淵の事業家としての感覚は父親、渋沢市郎右衛門について農業実務を体得したことには原点があった。商売人としての

代金融財務知識と複式簿記的技術はフランスへ出張の際出会ったロスチャイルド系の銀行家、フリューリ・エラール氏に負うところが大きかったと思える。

フランスから帰国後、大隈重信の誘いで大蔵省へ一時出仕し銀行業設立事務などを済ませて退官し、商工会議所を設立し民業開拓へ邁進したが、数多の事業創出には天才的なひらめきがあった。まず現場実務に通暁した人財を発掘し、財務的道筋を立てて、あとは強力な援助を行いつつ事業を推進したのであった。しかし明治8年から同18年まで商業実務者を育成する機関として商法講習所から商業学校を開設する機運に青淵も参画したが、彼は筆まめであったが商業簿記の知識は大福帳的なものであつたろう。しかし近

じく縁者であった渋沢新三郎について神道無念流の皆伝の腕前であった、この命がけの鍛錬の中で『筋胆智』が備わった。幕末明治初期には周囲環境が整わず難渋した。この経験は後日生かされる。こと

に現場実務者と経営的為政者の間には相互無理解による厚い壁ができやすいのである。青淵は後日欧米の日貨排斥や人種差別に直面し苦闘するが、国内的には上層社会人と下層現場社会実務者の反目を和らげる努力が大きかった。富岡製糸場を開設するとき、事業の企画は大隈重信、伊藤博文と青淵が主唱者であったが、実働部隊は青淵の意を体した場長に、上記の尾高惇忠氏を立て、現場実務者にはフランスから生糸製造の専門家ポール・ブリューナ氏を招聘した。しばしば話題になる現場工女には当初なり手が得られず苦労したが、惇忠の娘“ゆう”を皮切りに採用した。後日「富岡日記」⁽²⁾で有名な和田英（横田英）なども参加していた。工女時代は上品な職人世界であったが、時代を下り大正、昭和に到ると“工女”から“女工”になり世俗化した。

二、実業教育の精神と実践

明治5年の学制改革は明治維新の富国強兵思想が根幹となり、外国による植民地侵略を防ぐ国防の観点から国民を訓練する意図があらわに出ていた。一言で言えば國民國家建設である。強い兵隊と強大な武器弾薬の生産力構築であり、賢い

生産者の育成である、忠君愛国とも言える。その教育勅語が明治23年に公布された。戦後G H Qの命令で失効となつたが、その民族的意義は生きている。G H Qは大和心を持つ日本人が恐怖の的であったので、その精神を産み出す教育理念を抹殺したかった、それがいわゆるオレンジ作戦の真髓でもあった。しかし明治以前はどうかと言えば、農漁村や町場の職人達が生業として繩文時代いらい連綿として伝えてきた一子相伝の徒弟教育があり、それは今現在も依然として寺社大工や和菓子職人などの狭い平和な世界では効力を維持している。それこそ眞の伝統的実業教育の理念なのだが、明治期には国民国家建設の建前から教育を大衆的に一般化するべく勅語に纏められたのだ。大東亜戦争敗戦後G H Qを支えたグローバリズム的アメリカ共産主義者にはその伝統的理念は元々ないので、G H Qのお先棒を担いだ日教組の諸先生には実業教育の何たるかが理解不能になつた。漢学では朱子学が物事の性質の考究から理念が生まれるとする唯物的思考傾向を持ち、一方同じ儒学でも陽明学派ではその物事を考える人間の心と体の動きが理念を生むとする意図があらわに出ていた。

ささらに実業教育の理念を簡単に言えば、“お客様が求める品々を、心を込めて造る”という実踐行動の中で作業者の心や技能が育つので、陽明学的と言える。幕末に松陰や過激な水戸学派の行動的志士が叢生し、その流れで尊皇攘夷運動が高揚したことと思えば日本人には陽明学が好まれたと言える。そうした実務的仕事が実践できる人、それが実業人であり、その教育は生きている生産の場で教える訓育が望まれる。教室の黒板と机の世界で行われる知識偏重の大量人財教育では誠の実業家を産み出すことは望めない。また、日本伝統の実業である“生業”は生きることが目的の業務だから金儲けの理念は元々薄い。典型的な例は幸田露伴の作品『五重塔』に見える「のつそり十兵衛」である。必要な品を必要なだけ造ると言う考え方は塵の山を残さないのだが、不特定多数の顧客から金儲けが目的の元祖資本主義者アダム・スミスには想い到底なかつただろう。

今も残るが伊勢神宮の周辺には天皇家へ品々を納める職人や農漁村民が暮らしている。歴史的には公儀供御人と言われた市場経済とは無縁の一群の人達がいた（3）。その地域に住んで暮らす一族が自給自足の暮らしを営んでいたのである。

その生活形態は、必需品は金銭で働くかず市場の中で調達したい、とするアダム・スミス流の市場経済人とは異質である。

今日的市場経済でも生産と供給の環の中では造り手と需要者の間に日本的な非市場的依存関係がある、余分な儲けはないで暮らすということである。最大利子、利潤を追求する株式会社流の現代会社法には馴染まない世界がある。

欲深く金銭欲の強い経営者は労働者をただ働きで酷使し利潤を生み出そうとするが、喜んでボランティア活動をする人達の世界には欲得を離れた暮らしがあり、相互に助け合っている世界があるのだ。そうした世界には欲の皮が突つ張つた今日的市場人は入れないが、昔から言う“宵越しの錢は持たない職人気質”が伝統的日本習俗である。こうした伝統社会で後輩へ仕事の仕方を伝える徒弟的な仕組みを近代的な形に整えた仕事の現場が即ち“生産実習”であるが、これを的確に纏めた文章がある。「論学校附製作場」と言う小文で、幕末に外国からの侵略に直面した武士達が国を護る際の人財育成法を考えた結論でもあった。その小文は吉田松陰が残したものだが、そこには幕末の学者、横井小楠、佐久間象山、水戸学の藤田東湖達の哲学が反映してい

た(4)。

三、青淵と松陰

おなじ陽明学的な思想でも実践する人により現実の姿は大きく異なる例が青淵と松陰である。文久3年(1863)春、青淵が24歳のとき儒学と剣術の修行に江戸へ出た。青淵の自伝によれば目的は騒然とした江戸城下で志士達と交わることであった。その10年前、嘉永6年ペリーが浦賀へ黒船4隻で来港し幕府に開国を迫った。以来年を追うごとに日本中が騒然となり、頻々と来港する外国船を危惧し、ことに水戸浪士を中心に騒ぎが拡大した。幕府の弱腰無策を攻める攘夷運動が燃えさかっていった。その状況は今日の国会議事の堕落ぶりに類似する、重要法案をなおざりにして桜の花見会を喧々諤々と騒いでいる、国民はあきれている有様なのだが、幕末の柳営も同様であつたろう、政権も長続すると腐敗するのだ。

青淵が一橋家へ仕官したのは翌年元治元年(1864)であるが、以来慶応2年(1866)秋までの3年間ほど下級藩士ではあつたが青淵の活躍は目を見はるものがあつた。まず一橋家御領地の特産品を調べ、殖産振興につとめ産品を大阪・京都へ出荷し営業利益の拡大を図り、藩財政を改善した、この分野は青淵得意分野であった。次いで領内の農民を集めて高杉晋作の奇兵隊に類して農民兵を編制した、一橋家の近代的防衛力を建設したのだ。これら一連の事業を約3年間

万延元年(1860)には桜田門で井伊大老が水戸藩士に斬られ、文久元年(1861)には東禅寺事件が出来し、水戸浪士がイギリス公使を斬る、文久2年(1862)には江戸城坂下門で大老安藤信正が浪士に襲われた。同年、萩藩

高杉晋作達松陰の弟子達は横浜イギリス公館を焼き討ちした。青淵も国の不安を案じて一大事件を起こして国政を喚起しようと高杉に追随する形で横浜テロルを企画したのであった。江戸で同志60人ほどを募集し秘密裏に計画を策定し、秋口に横浜を襲撃する手筈とした。だが、周囲の情勢を綿密に考慮して襲撃計画は土壇場で回避され同志は解散し、青淵と部下1名で京都へ遊学することになった。その上京を斡旋したのは一橋家要人、平岡円四郎であった。一橋家は徳川慶喜が殿様であり、青淵の思想は尊皇攘夷から佐幕へと180度転換したわけである。実務家であった青淵が現実を直視し冷静に状況を読んだ結果であろう(5)。

青淵が一橋家へ仕官したのは翌年元治元年(1864)であるが、以来慶応2年(1866)秋までの3年間ほど下級藩士ではあつたが青淵の活躍は目を見はるものがあつた。まず一橋家御領地の特産品を調べ、殖産振興につとめ産品を大阪・京都へ出荷し営業利益の拡大を図り、藩財政を改善した、この分野は青淵得意分野であった。次いで領内の農民を集め高杉晋作の奇兵隊に類して農民兵を編制した、一橋家の近代的防衛力を建設したのだ。これら一連の事業を約3年間

で達成した実績は殿様に高く評価され、殿様への意見具申なども取り上げられることになった。慶應2年に慶喜は第15代將軍になるが、青淵は反対意見を上申していた、幕府に入つても成功はおぼつかないし第一危険でもあると。しかし聰明な慶喜は一大決心をして將軍職を朝廷に返納してしまった、慶應3年10月の大政奉還である。青淵の忠言を聞いた形である、それは正解であった。結果として官軍の幕府への攻撃目標が消滅したからである。在京中青淵は敬天愛人の西郷と国政などで意気投合し、その後、殿の命令で徳川昭武の従者としてパリで開催の第2回万国博へ出張した。その間に国内では鳥羽伏見の戦いが始まり、戊辰戦争が繰り広げられていた。

一方、吉田松陰は早熟の天才であった。生まれは天保元年（1830）杉百合之助常道の次男として生まれる。5歳のとき叔父吉田家へ養子にする。吉田家は山鹿流軍学者の家柄で、9歳で家学見習いとして藩校明倫館へ上がり、10歳で家学を講じた。嘉永元年（1848）には19歳で山鹿流軍学者、兵学・儒学師範として独立した。この年、松陰の師佐久間象山は洋式野戦砲を造っていた。嘉永7年（1854）3月ペリー艦隊が再来し、

日米和親条約が締結される。松陰は弟子金子重輔を伴い米艦でアメリカへ出国を企てるが失敗し、自首して江戸の牢に繋がれる。同年10月萩藩野山獄へ収監、明治2年藩政府は松陰を実家杉家へ預けた。安政4～5年幽閉中に弟子達が集まり松下村塾を塾生ともども“生産実習”（當時生産実習と言う言葉はなかった、後日佐藤孝次が創案）にて建設する。塾生として明治維新を推進した元勲である伊藤博文、井上馨、山縣有朋、正木退蔵、久坂玄瑞、他70名ほど集まった。結果から考えれば、松陰は軍学者よりも教育者として成功したと言える。後日、正木退蔵は明治政府の業務でイギリス・ロンドンへ派遣され、留学生の監督や欧州実業教育事情の調査などを行った。その結果が明治13年に文部省管轄の東京職工学校の創立に繋がった。

正木退蔵がロンドン駐在中に小説『宝島』や『ジキル博士とハイド氏』の作者であるロバート・スティブンソンと懇意になり、吉田松陰と松下村塾の話を克明にしたらしい。感動したスティブンソンは “Yoshida-Torajiro” とした隨筆を残している。今も氏の全集に見ることができ、そこには松下村塾の有様が生きと描かれている。

東京職工学校は隅田川縁の東京浅草蔵前の大蔵跡地に建設された。初代校長は上述の正木退蔵が就任した。漢学の授業は正木が担当していた。初期の実務授業には現役の大工職人などが担当した。筆者の生家は蔵前校舎の脇で浅草通りに面していた商家であったので学校の噂話を憶している。大正12年の震災で消滅するまで職工学校の評判は日増しに高まり、震災の頃は校名が東京高等工業学校となり、付属徒弟学校なども併設され、松陰遣訓の学風が残されていた。震災後、同校は目黒区大岡山へ拡張移転し東京工業大学に昇格した⁽⁶⁾。

四、製作学教場と工部大学校

今日実業教育機関として見渡せば、公私著名なものが多数あるが、明治初期に発足した代表的な実業教育機関は開成学校（南校）の付属施設として明治7年に開設された製作学教場と工部大学校を挙げることができる⁽⁷⁾。製作学教場は現場大工や窯業などの実務者が勉強する場であったが、南校が東京大学に発展するには不適当という判断から明治10年に廃止されるが、明治17年には東京職工学校

(後日の東京工業大学)へ移管された。ドイツ人化学者、ゴットフリード・ワグネルが窯業の教鞭をとっていたが、同氏は施設と共に東京職工学校へ移籍し、日本の窯業界の発展に大きく寄与したことでも知られている。ちなみにワグネルは明治25年に他界し、東京青山靈園で永眠している。彼の業績を顕彰する銅像が東京工業大学、京都府立図書館、および九州JR有田駅にある。

工部省が虎ノ門に設立した工業仕官の教育施設として開校した工学寮が始まりで明治10年に工部大学校となり明治19年には学制改革で東京帝国大学工学部となる。企画者は文久3年に渡欧した長州五傑の2人、伊藤博文、山尾庸三で校長はイギリス人ヘンリー・ダイアードであった。五傑の内、伊藤と井上馨は渡欧後すぐに国内問題が理由で帰国するが、山尾はグラスゴー大学で造船実務を学んだ、そして同大学ランキン研究室に在籍していたダイアードをスカウトしたのであった。

学科は英語が日常的に使用された。(雇い外国人教授が講義し全員寄宿舎生であった。学科は予科2年、専門科2年、実地科2年の都合6年であった。著名な卒業生はジアスターの高峰譲吉、電気工学

の藤岡市助、建築の辰野金吾らが有名である。それぞれ日本の近代化に貢献された。帝国大学に吸収されてから実技部分は簡略化され、アカデミズム化が進んだことは一面では喜ばしいが実技軽視の側面も生まれたのである。これらの実業教育機関発足の事情を眺めて見ると松陰の弟子達、長州閥が活躍している風景が見える、山尾は松陰の直接の弟子ではなかつたが、松陰の畏友、木戸孝允の弟子筋であつた。

五、科学・技術・技能の鼎立と外来文化の考察

慶應2年暮れに歐州へ出かける前、青淵が京都在住の際に西郷南州と極めて親密に歓談したことがあった(8)(9)(10)。巨

人同士の話であるからさぞかしスケールの大きい内容であったと想像できる。例えばキリスト教文明と我が大和文化の衝突などの話しに発展していくのではないかと想像したい。既に寛永14年(1637)に島原の乱があり、九州ではキリスト教に関わる不祥事は山ほどあったので南州はその現実、異文化対立の困難性を知りすぎるくらい承知していたであろう。その後明治6年2月にキリスト教布

教は解禁になり、同年9月に歐米調査の岩倉使節団が帰国した。帰国後ふたたび征韓論が再燃し、論陣破れて西郷、板垣、江藤達参議は朝議を辞して下野した。筆者にはこの議論がブラーイフ(blah:たわごと)に見えるが別稿で論じたい。異文化異文明との対立は様々な分野で今日も問題を醸している。

青淵がスエズ運河工事現場に遭遇した際気づいた事業創出資金調達への疑問、さらに高位の人との対話が平易に行えることが和文化とは著しく異なることへの感動など、後日の宿題として残った。こでは生業の在り方の違い、維新いろいろ歐米的暮らし方が怒濤の如く青淵達の頭上に襲来したこと、科学的思考と生産現場の方法、日常手仕事の有様について考察してみる。

科学(science サイエンス)的思考が歐州からやってきてまず大学などの高等教育機関に定着した。論理的思考で物事を分析し、純粹簡単な方法で再現性を実証することを繰り返し、人間社会に有用な方法・思考を構築する学問と言える。例えば医学では病気の原因を探求し治療法を構築する、例えば野口英世の伝染病研究、大森貝塚を発見したエドワード・モースの考古学的研究など。

機械技術（technology テクノロジー）では蒸気機関を発明したジエイムズ・ワット、内燃機関を工夫したルードルフ・ディーゼル、工作機械の母と言われる旋盤を発明したヘンリー・モーグレイらが有名な外来的科学・技術者としてあげられる。その他枚挙に暇がない多数の新来文化がある。機械技術を工学と呼んだ嚆矢はH・ダイアードであった。

技能職人（artisan アルティザン）、日本古来の伝統的技能の場で、農漁民・街場職人の世界、勘・コツで成り立つ世界である。自給自足経済の場面であり、歐州中世的でもある。

科学的業務に携わる人を仮にAとし、技術的業務に携わる人をBとし、職人的業務に携わる人をCとすると、A、B、Cの人達は互いに尊敬すると同時に軽蔑し蔑む傾向がある、AはBを油臭いと言いいBはAをかび臭いと言い返す、CはAを青びょうたんと言いAはCを憚担ぎとあざける。A、B、Cは互いに時を突つ張り合うと同時に独立・鼎立し競争関係を持つている。明治以降從來我が国ない異質のA、Bの生活空間が顕著に日本に出現した。

そしてA、B、Cそれぞれが徒党を組んで集会を開く。AとBは学協会と言い、

Cは協会・職人会と言う。そして年2回程度の大会を催す。会議では構成員のそぞれの発表があり、散会後は食堂にあつまり飲食を共にし、アルコールを召して氣勢を上げるのを常にしている。大会では宣言文などが公表されることがあり、マスコミ機関の話題になることもある。日本社会では学会の親玉に、日本工学会という機関が明治12年に発足した。工部大学校のH・ダイアードが主唱者だった。その後下部組織に多数の諸学会が生まれ、現在では約400ほどの登録機関がある。学会は参加者の会費と会所の学校、会社などが協賛金を提供して運営されている。Cの世界では昔から手工業組合とか職人連盟などがあり、特にヨーロッパでは職人の権利維持・保険などの活動が行われ、宗教団体の慈善活動に付属していた例もあった。欧米諸国でも産業革命以降、新奇発明や考案が莫大な利益に繋がることが多いので会社・企業が積極的に研究機関へ投資する場合が増えた。

利益・利潤に聰い金持ちは喜々興奮しながら研究投資をするに違いない。新案特許事務などが19世紀から始まっていた。欧米諸国でも産業革命以降、新奇考案を事業化する投資家も逐次増えた。新奇事業は投機的意味合いもあるので経済的リスクは当然存在する、したが

い事業開始には度胸と胆力が不可欠である。研究員を雇用する学校や会社が増加したのは19世紀以後の特徴で国民国家が発展して國力増進を期待する意味があった。欧州諸国の昔は教会の修道院などで修道僧などが研究していた。実用的にはチーズやバターを造るとかワインの醸造などから化学研究が始まり、鉛を金に換える（これは実用には成らなかった）鍊金術などから原子化学などが修道院で行っていた。欧州諸国は気候的に安定していたので、このような長閑な暮らしができたと思える。新奇研究には長閑で裕福な環境が不可欠で、大概は大学の研究コースか大会社の研究室がその場所と資金を提供している。欧米でも19世紀までは大学の学部は神学・宗教学が主体で科学・技術は殆ど相手にされていなかつたのである。

一方天変地異の多い島国日本では何故かA、Bなどの研究生活は育たなかつた。農業世界で生まれた金持ちはお酒の嗜好が流行らないのでバターやチーズの生産は明治以降にならないと一般化しなかつた。大量にこしらえて儲けるという発想がそもそもなかつた。力学や電気学の理論主導の分析的科学は生まれなかつた。せ

いぜい思い出せるのは平賀源内（1728～79）であるが、あまりに奇抜だという

である。

六、もう一つの実業教育機関

代にからくり人形が大衆娯楽の興業に見られたし、時計なども長崎出島経由で伝来してはいたが、軍事的技術には発展していない。新奇技術はヨーロッパでも魔女狩りなど魔術的な鍊金術師などは処罰されたので日本だけの偏狭さではない。

日本社会で科学の発展が遅れたのはやはり天然自然の厳しさが裕福な研究を受け付けなかつたことが根本的理由ではなかろうか。他面、繩文以来の美しく静かで平和な世界では欧洲世界に比べて破壊的武器などの発展の必要性が少なかつたことも理由であろう。せいぜい日本刀と芸術的鎧兜が発展したのに止まつていた。それに青淵がスエズ運河を通らなかつたならば射幸の人間を育てて起業に邁進することもなかつたかも知れない。明治以降の日本でA、Bの如き新文化を産んだ理由は黒船的軍事威嚇の恐怖からではなかろうか。維新いらい衣服の変化も顕著で、洋服は活動的だが和服の優雅さがない。単に生産現場や戦場で便利だと言う理由で洋服が普及したのではないだろうか。逆に見れば戦争や大量物財生産の必要がなければ窮屈な洋服の必要はないの

維新後は産業従事者と国民軍拡張のための兵員を確保するために国民の教育が不可欠であった。明治5年8月に学制が公布され、大中小学区が決まつたが当初は生徒が集まらなかつた。明治12年にさらくに工夫されて教育令が発令され中央集権化が進んだ。

明治32年には実業学校令が公布され予算処置（実業教育国庫補助法）もあり、全国的に実業教育機関が整備された。その頂点に東京職工学校が位置づけられ実業教育の全国ネットが敷かれていた。当時は東京職工学校から昇格した東京工業学校に改められ内容も逐次高度化していく。しかし新卒者対応だけでは産業界との対応が足りないので在職者教育の需要が求められていた。明治初期の岩倉調査団に通訳として随行した手島精一氏は後日職工学校2代目校長になるが、調査団に随行してドイツのマイスター・スクールを参観、それを模倣して全国的に実業補修校制度を取り入れた。當時東京職工学校が、現場職人の教育訓練を全国的に統括していた。即

ち実業学校、実業補修学校、徒弟学校などをその傘下に纏められ、教員は工業教育専門コースで訓練され全国へ派遣されるシステムができていた。大正12年の関東大震災で震前の大東京高等工業学校は壊滅的打撃を受けたが、目黒区大岡山へ移転し再建された。

震災の破壊を復旧するための建築大工が不足していた。当時内務省外局に厚生・医療を管轄する部門があり、その一部に労働者保護条例規定が工場法（大正5年実施）として公布されていたので何とか間に合い震災復興のため緊急的に速成訓練を実施し建築労働者の供給を行つた。これが、その後厚生労働省が職業訓練に参加するきっかけとなつた。そのとき講師として採用されたのは東京高等工業学校の教授や講師、そして現場の建築専門家が参加していた。工場法はその後労働基準法の技能者育成条項へ拡張され、現在は産業界の進展に伴い時代の要請を受けて職業能力開発促進法に発展している。職業訓練が全国的に組織化され、教育訓練は職業能力開発総合大学校を頂点として全国組織が仕組まれ、末端は技能開発センターが担当することになつてている。しかし依然として教師・講師の不足があり、東京工業大学の協力を戴いている。

東京工大が兄貴分で職業訓練大学は弟分の形が続いていると言える。と言う訳で日本の職業訓練の基本精神は依然として吉田松陰の「論学校附製作場」から外れてはいないのである。

七、富岡製糸場と王子製紙

青淵が明治政府に出仕してまもなく官営の機械製糸工場を建設したいとする意見があがつた。大隈重信・伊藤博文と青淵はフランス公使館へ相談し製糸技術者ポール・ブリューナ氏を紹介された。早速計画が進み所長に青淵の義兄で儒学師範であつた尾高惇忠を据えて群馬県富岡へ工場を建設することが決まった。

明治5年11月4日に官営富岡製糸場は操業を開始した。工女を募集することが難事であった。明治6年1月には404人の工女がいたが、旧士族の娘達が集められた。当時の記録は和田英（横田英）の“富岡日記”に詳しい。

明治6年大蔵省官吏を退官した青淵はイギリス人工場建築技師1名、アメリカから製紙技術者1名を雇つた、製紙機械はアメリカから購入した。機械が到着したのは明治7年頃、工場は王子の飛鳥山崖下の湿地を整地して建設。製紙には大

量の水を使うが、付近を流れる石神井川から汲み上げて使うことになった。商品としての製紙が始まつたのは明治8年の初春の頃であった。大量の地券用紙の注文があり経営は軌道に乗つた。紙すきが始まつた頃は技術的トラブルがあり、苦闘したことが記録されていた。当初は「抄紙会社」であったが、明治26年11月には「王子製紙株式会社」に変更した。主要銀行は当初は第一國立銀行であったが、明治29年には三井の経営人脈が經營実務を進めた。

八、金融と実業、そして商工会

青淵は明治6年に大蔵省を退官し第一國立銀行を創立したが、そのときの経緯が複雑である。当初頭取が2名いた。三井八郎右衛門と小野善助であり、青淵が監査役に收まり2人の間を纏める役であった。ところが明治7年になって小野組が破綻した。小野組の番頭役に古河市兵衛がいて危急の場面を救済してくれた。その縁で古河市兵衛が足尾銅山の経営に乗り出したときには第一銀行と相馬氏、古河市兵衛の3者で10万円の拠出で合資会社として足尾銅山を発足させた。相当な胆力がなければできることだ。

金融機関の初期運営が軌道に乗つて、貸し金利息収入に余裕が出てくれば銀行は安泰だが、資金の流れが滞ると取り付け騒ぎの危険がある。貸し出し先実業、つまり銀行の客筋経営を見守り経営指導が求められる場合もある。それは銀行の仕事ではないが、そういう場面を救うのが商工会議所などの実業運営機関の役割である。青淵はそうした場面で官僚と諸実業家との連携を司ることが巧みであった。青淵の伝記をひもとくと相当に危ない場面もあった。それを乗り切れたのは神道無念流剣法で得た胆力と基督教的智恵とフランス出張で得た外国人と対等の交流で得た度胸と実業的自信、そしてまた藍玉製造販売で培つた営業的自信ではないだろうか。全ての場面で得た経験が実業人青淵を支えていた。実業社会が安定に運営されていれば社会全体の価値創造は繁栄し、それが国力となることは自明である。幕末明治期に青淵が描いた国家像は経済的に我が国を安泰にするということであった。その方法は金融業と諸実業と間を取り持つ要である商工会であり、銀行の頭取であると共に商工会の頭取に収まつたことは当初からの目標であったと考えられる。

九、日米委員会と青淵

生涯に、470社以上の実業会社を創立した。そして青淵77歳で大正5年（1916）に実業界から引退したがそれは終わらなかつたのである。前年大正4年（1915・4）に日米委員会を発足させ商工会議所のメンバーを動員して日米相互理解、親善外交を開拓し、人種差別や日貨排斥運動を沈静化したかった。しかし当時のアメリカ大統領はユダヤ資本を背景に持つ第28期ウッドロウ・威尔ソンの時代だった⁽¹⁾。彼は国際連盟で日本が提出した人種差別撤廃法案を否決した人で、親日的とは言えなかつた。

しかし日本は第一次世界大戦（1914～1918）に連合国側の一員として参戦していた最中だし、貿易相手国としてもかなりアメリカ経済に貢献していた。同年12月には青淵らはウイルソン大統領を表敬訪問していることが『青淵回顧録』に記載がある。したがつて初期の財界としての訪問は成功していたと思われる。

しかし当時既に日本を仮想敵国とするオレンジ作戦計画は国防省で検討がなされていた。旧約聖書的世界觀から見れば大和民族は油断ならない相手だと認識が

霧開氣は分からぬものが、おそらく緊張した様子であったと推察される。青淵達、

訪米調査団の帰路船中の考察を推量すればただならぬものがあつたであろう。その危惧感が上記の日本側委員には残つたと思われる。青淵は既に国内産業界の資本主義的發展は峠を越して、次なる課題は如何にユダヤ的資本侵略と戦うか、という方向転換が急務だと考えたと推察される。その結果の決断は日本の潜在的国力を増進させる科学立国と人財育成に集中すべきと構想し、諸々の柵を払い財界を退陣する覚悟を決めたと思える。

青淵は慶應3年のフランス出張の後、20世紀になってから4度ほど調査団を組織して外遊しているが、その都度各国の政界人や実業界の要路と会談を重ねていた。その都度帰国後に関係筋で講演、報告され、要旨は『青淵回顧録』などに残されている。欧米滞在時に実業界の要人が自らフリーメイソンであることを告白され秘密の文書を青淵に紹介していくことが回顧録にある。青淵が日本実業界の筆頭者としての信用がそれを可能にさせたと言えよう。青淵は内心、「化け物が現れた」と気づいたであろう。しかし、無念流達人青淵は静かにその紳士の言葉

アメリカ側にあつた。当時の日米会談の雰囲気は分からぬものが、おそらく緊張した様子であったと推察される。青淵達、た様子であったと推察される。青淵達、

訪米調査団の帰路船中の考察を推量すればただならぬものがあつたであろう。その危惧感が上記の日本側委員には残つたと思われる。青淵は既に国内産業界の資本主義的發展は峠を越して、次なる課題は如何にユダヤ的資本侵略と戦うか、という方向転換が急務だと考えたと推察される。その結果の決断は日本の潜在的国力を増進させる科学立国と人財育成に集中すべきと構想し、諸々の柵を払い財界を退陣する覚悟を決めたと思える。

青淵は慶應3年のフランス出張の後、20世紀になってから4度ほど調査団を組織して外遊しているが、その都度各国の政界人や実業界の要路と会談を重ねていた。その都度帰国後に関係筋で講演、報告され、要旨は『青淵回顧録』などに残されている。欧米滞在時に実業界の要人が自らフリーメイソンであることを告白され秘密の文書を青淵に紹介していくことが回顧録にある。青淵が日本実業界の筆頭者としての信用がそれを可能にさせたと言えよう。青淵は内心、「化け物が現れた」と気づいたであろう。しかし、無念流達人青淵は静かにその紳士の言葉

を聞いたのだ、かつて南州と語った一神教の現実の姿を目前にしたのだ。帰国後から我が国の宗教界、精神教育界を糾合する運動に着手した、大正元年に日本女子大学創立者成瀬仁蔵氏らと共に帰一協会を設立した。ここを舞台に思想界を改善する活動を興したが、我が國の斯界の状況が整わず發展はしなかつた。

大正5年に財界を引退しても青淵には様々な仕事が残つていた。引退後の事業として3つを選んでいた。「一、道徳経済の合一」「二、資本と労働の調和」「三、貧困者救済の事業」。このほか隠れた事業として「四、真の國力開発」があつたと想像できる。一、の問題は資本主義の本質的矛盾である「利子と欲望」であり、これの解決は今後の世代へ残された。二、の問題の本質も資本論理と労働問題で難しい問題だが、「協調会」という事業団体が引き受けることになった。三、の問題は青淵が明治5年に取りかかった養育院に関連した慈善事業である、これはしかし多数の後継者が引き継いでくれた。

四、の問題は国際的に微妙であるので表には宣言しなかつたのだと思える、理化学研究所の創立と真の実業教育機関の設立であつた。

青淵が引退後纏めた大きな仕事として、『徳川慶喜公伝』の編纂があるが、これは明治2年頃から編集者に萩野由之博士を得ていたので順調に進み、大正7年に公刊になった。

二、の「協調会」は青淵と旧静岡藩主徳川家達が主唱して成立した財團である⁽¹²⁾。労働者と資本家の造られた闘いが始まり、資本と共産主義イデオロギー対決の場が生まれた。青淵が発案した緩衝機構と言えるだろう。旧内務省の外局として活動する団体で、労働問題の研究調査、社会事業などを担当していた。一時期港区麻布に事務所を構え職業実務に関する教育・訓練などを実施していた。中央労働学園という学校組織が立ち上がり、講師は東京工業大学から招聘されていたことであった。戦後G H Qによる労働パージ（労働争議への不当な干渉と見なされた）があり、この機関は廃止となるが、職員や資料は法政大学や産業能率大学へ促進事業団へ受け継がれ産業界底辺の実際的な実業教育機関がそこで育ったのである。そして昭和33年には労働省外局として中央職業訓練所が小平市小川に設立され、さらに発展して現在の職業能力開

発総合大学校に到り、全国的な職業実務訓練の組織ができあがった。しかし全ての出発点は青淵の『論語と算盤』の思想から流れ出でたと言える。

四、の事業はあまり注目をひかないが、皇室の助成もあって青淵の飛鳥山の自宅に近い駒込に設立された財團法人の理化学研究所で全国の秀才を集めて様々な理化学的研究が実施され、一部は実用化され事業化された。理学博士仁科芳雄を中心とした原子科学研究グループは一時期世界的先端にいた。原子力研究も進められたが戦後G H Qにより研究施設は東京湾へ破棄された経緯がある。

冒頭にも記したが、青淵の飛鳥山の住宅下に台地があり、そこに府立商工学校が設立されたのは大正9年で、昭和10年に東京板橋へ拡張移転した。技術実務教育に重点を置き、青淵が設立発起人となり、氏の推薦で初代校長は熊本藩士菊池午之助、教諭は東京工業大学卒の佐藤孝次で発足した。青淵を主唱とした財界の寄付があり設備を充実して、昭和15年頃から松陰思想に基づく「生産実習」が実施され有能な技術職人を輩出した。その伝統は現在も後継校、北豊島工業高等

十、国際政治・生存か死か

日米委員会は10年後の大正14年、太平洋問題調査会（日本I P R、Institute of Pacific Relations）へ発展する。設立当初は青淵が評議会会长長、日銀総裁井上準之助が初代理事長に就任した。旧日本委員会の日本側メンバーは変わらなかつた。次いで昭和4（1929）年に京都会議があり、朝鮮代表参加問題でもめた。議題は国際親善活動から発展し国際政治経済分野へと拡張されていき、その後、蠟山政道、牛場友彦、松本重治ら若手左翼系メンバーが参加し「東京政治経済研究所」が立ち上がり、彼らは近衛文麿の側近になった。アメリカ側はロックフェラー財團から資金が提供されるようになりアメリカ左翼系メンバーの参加があり、昭和18（1943）年5月には敵性機関として解散された⁽¹³⁾。青淵が意図した国際親善活動は左翼陣営に占領され、日本対立を促進する方向へ発展したのは意外な結果であった。旧約聖書的な世界観が世界に底流しているのだ。

近衛文麿は伝統のある裕福な藤原家の当主であったが京都大学で左翼学者河上肇に師事し、共産主義にかぶれたことが

知られている。かれは昭和12年の第1次近衛内閣から第3次内閣16年まで首相を務め、内閣の人事を好んで左翼系メンバーで固めていた。最近の研究では近衛はソ連共産党政権に近い独裁政治運営をする意図をもっていた。昭和天皇に彼の意图は拒否され、曖昧な形の大政翼賛会という政治形態が実施されたが、同じくアメリカのルーズベルト政権も取り巻きはユダヤ思想の共産主義者で固められていたことが最近の研究で明らかになった。日本もアメリカもコミニンテルンに操られたのだ。日・米はコミニンテルンに操られて戦争という殺し合いをして終った⁽¹⁴⁾。なぜ共産主義が世界に拡散したのか。その謎をめぐる研究と現在アメリカと中國共产党の確執が続いている現実を如何に評価し、和平に解決するか真剣に考究することが求められる。さらに驚くべき事実は資本主義という経済・社会思想とそれに真っ向から戦うと考えられていた共産主義は、根が同じものであるということが判明したのである。それらの事実はルーズベルトを批判していた前任のハーバート・フーバー大統領の最近公表・出版された回顧録に記載されている。アメリカでも正統派歴史学界が吃驚仰天しているが、戦後70年の日本国内の政治・社

参考文献

- 1、大川時夫: 北豊島工業高等学校の生産実習
技術史教育学会誌 第1巻第1号 2003年
- 2、和田英: 富岡日記 築摩書房 2014年
- 3、網野善彦: 日本中世の百姓と職能民 平凡社ライブラリー 2008年
- 4、大川時夫・堤一郎: 吉田松陰と横井小楠の

陶々俳壇

ようよう

キヤタピラの跡の泥水並揚羽 松島一三四

〈由紀子特選〉 キヤタピラは戦車や軍事用車両に使われているが、その轍に溜まつた泥水の上に並揚羽

が舞っているというのは想像を駆かれてる。キヤ

兼題 「紙の虫」「家」および自由題

マスクなく歩くわが身に冷たき日 濑崎明良

〈善一特選〉 私はマスクは大嫌い。近頃はこの句のように冷たい目を避けるため、マスクをつける時は鼻を出して息がしやすいようにしている。

アジサイにしばし忘れる拘束日 //

夏蝶のもつれつ空の点となる

〈明良特選〉 もつれつ空の点 素晴らしい表現だと思います。

青簾よるもののが揺らしをり //

〈三四特選〉 まだ青い竹の簾が揺れている。はて

今宵風はそれほど強くないのだが。さては土地に住む物の怪の仕業か。というところでしょうか。発想が豊かで「もののけ」という単語も奥深い。富崎駿のアニメの「場面まで想像できるようでした。」による「寄る」と読みましたが、いろいろな解釈ができるのです。

橋本紅杓

あやめ咲く木立静かな池の淵
漬物の実梅出そろい梅雨に入る

//

〈正堂特選〉 月の句会に「青簾よるもののが揺らしをり」という正堂氏の句がありました。私も勿論採らせていただきました。

禅寺に参る道の辺濃紫陽花
牡丹燃えコロナ禍未だ去らざりき

//

大内善一

倉阪鬼一郎の『怖い俳句』。岩垂景垂さんから勧められたもので、夏の夜の読み物にぴったり。いくつか紹介させていただきます。

戒名を思ひだしたる紫蘇畑

柿本多映

夕顔やだんだん鬼になつてゆく

寺井谷子

薔薇の家犬が先ず死に老女死す

西東三鬼

巫女に狐恋する夜寒かな

与謝蕪村

昼夜せるときに魔性のものたかる

山口誓子

屍らに天の喇叭が鳴りやまず

片山桃史

不気味なところもありますが、狐には同情も寄せたくなります。犬や老女の死、天の喇叭は可哀想でやる

せなくもありますが、生きとし生けるものにとって死

というものは不離のものであり、その悲劇を語っていかねばなりません。その覚悟がこのような句を作らせたのではないか。

この世から妖がいなくなってきたといわれます。妖は想像力の産物です。自分の死後をイメージしたり、鬼になつたり、魔性のものを感じたり。想像力の欠如からは決して生まれ得ることはありません。

大雨の被害が相次いでいます。これまでの雨の降り方とは全く異なる激しさです。昔人の想像力が、河童や蛟を産み出し水の恐ろしさを心身に植え付けることによつて水との共存を謀つてきたように、今までに新たな妖怪を創造して私たちを守つてもうつのも良いのでは。

そういえば、疫病から守つてくれるアマビエがいましたね。肥後の妖怪というのだからまた皮肉な話です。疫病には疫病、水には水の妖怪が必要なようです。

怖い俳句

馬場由紀子

今月の句会に「青簾よるもののが揺らしをり」という正堂氏の句がありました。私も勿論採らせていました。

落語の『死神』を聞いた後にでも作られたのかしらと勝手に想像してしまつたのですが、そういうえば怖い俳句の本があつたと思い出したのです。

そういえば、疫病から守つてくれるアマビエがいましたね。肥後の妖怪というのだからまた皮肉な話です。疫病には疫病、水には水の妖怪が必要なようです。

員彼是会

台灣医療事情

—新型コロナ拡大を防いだ台湾の医療制度とは

松島めぐみ

「台湾医療事情」という拙文を『善隣』にお送りしてから1年近くが経過した頃、未曾有の感染症「新型コロナウイルス」（以下、新型コロナ）が全世界を襲った。人類は終息の見えない感染への不安はもちろんのこと、暮らしや経済への影響に対する懸念の最中にいる。

その中で初期対応に成功し、感染拡大をほぼ抑え込んだと見られている国・地域がいくつあるが、台湾はその代表格だろう。台湾の対応の見事さについてはさまざまなもので、日本でも多くの報道があり、台湾はその代表格である。読者各位も見聞されていることと思う。

曰く、中国の反対によりWHO加盟が果たせていない台湾は、2003年のSARS流行時にWHOの情報から疎外されたため多数の感染者が出た苦い経験を鑑に、防疫や公衆衛生政策の強化を継続してきた結果、新型コロナの発生にいち早く反応、世界に先駆けて迅速な防疫措置をとった。曰く、元々はマスクの多く

を大陸から輸入していたが、マスク不足による国民の不安を解消するため消費量から供給量を逆算し、官民が協力して製造ラインを増設、春節（旧正月）返上でマスクを増産し、国内需要に100%対応できる態勢を整えた。国内需要を超える分で輸出も再開、いまや中国に次ぐマスク生産国に躍り出た。曰く、国民党皆保険制度を活用して、健康保険証を提示すれば規定量のマスクが確実に購入できる環境を迅速に構築したうえ、薬局の分布とリアルタイムのマスク在庫量がスマートでわかるマスクマップを、これも官民協働で開発した。陣頭指揮をとったIT担当大臣オーデリー・タン（唐鳳）氏は弱冠39歳、既存の就学制度に馴染めなかつた天才で、10代終わりにはシリコンバレーでITベンチャーを起業し成功したが、ITを使った社会変革に貢献したいと、女性だと認識してから性転換したことでもうになつた台湾事情から、なぜ台湾は新型コロナにうまく対応できたのか、台湾の医療制度はどうなっているのか、ゲルメや親日で括られがちな台湾のほんとの姿とはどんなものか、と興味を持つ日本人も多いのではないだろうか。私の「台湾医療事情」は、新型コロナ発生からおよそ1年前の経験談であり、残念ながら新型コロナと直接関係があるわけではないし、医療体制や医療水準を客観的に分析したものでもない。しかし、台湾の基本的な医療制度と現地での体験を述べることで、台湾と日本の違いを考えただくきっかけにはなるかもしれない。特に、日本同様国民党皆保険制度を採る台湾が、ITの活用によって制度の利便性をいかに高めているかは、日本が大いに学ぶべき点であると思う。

ややこじつけ的にそう解釈して、台湾医療事情についての拙稿を続けたい。時間は2019年の3月に遡る。

日本語教師として台湾へ赴いて1年余り、いろいろなことがあった。赴任先の蔡英文政権からの入閣要請を快諾した逸材である。男性として生まれたが自身を象徴する人物でもある。等々。

高雄で、研修や授業の何倍も時間がかかる準備、そして慣れない授業に翻弄される中、街なかに点在する隠れた史跡を探したり、近代高雄始まりの地とも言える高雄港「濱線」エリアを散策したりと（日本語の「はません」という読みが現地語に受け継がれている）、ささやかな楽しみをようやく見つけつあった頃、学校側の都合で異動を命じられた。学生たちや親しくなったご近所さんとの別れを惜しみながら台南へ赴任したのが昨年5月下旬。台南校は高雄校の倍くらい忙しく、授業とその準備、テストの採点や宿題の添削などで精一杯、京都にも例えられる古都台南の街を楽しむ余裕はないまま日々が過ぎている。

そんな生活のかなりの時間を過ごしているのが、じつは病院だ。

高雄に行って間もない昨年1月末、転んだ際左腕で支えたのが原因で左肩を痛めた。当初はそんな大事とは思わず痛みをこらえていたが、よくよく検査したら腱が切れていたのだ。肩腱板断裂と言うそうで、ある年齢になると自然に切れることがあるが、若くても運動や事故で切ってしまう人もいるらしい（私が若いというつもりはないので念のため）。

高雄の医者の見立てでは、手術するのがベストだが温存療法も可能、ただし年をとつてから腕が不自由になるかもしれない。そこで、いざれ手術したほうがよいとのことだった。当時は日常生活に大きな支障は感じなかったので始まつたばかりの仕事を優先することにし、周囲の筋肉を刺激して損傷個所の働きを補強するという温存療法を選択した。施療のためには週2回程度通院する必要があり、検査してもらつた自宅近くの病院にそのまま通っていた。

しかしそんな体調だと知つたうえで出された異動命令、続く引越し。病院もいちから探さなければならない。ここなら、という日星がついたものの、初診まで1か月待ち、優先して診てもらうには前の病院の紹介状が必要と言われて、高雄までまる1日かけて出かけ、カルテの写しやMRIの画像データをもらつてくるといふ作業も必要だった。もちろんこれらの費用は自前である。その甲斐あって台湾では、台湾トップレベルと言われる国立成功大学医学部附属病院の骨科（整形外科に相当）にかかることができ、同院の物理療法センターで、修士学位を持つ専門の治療師から施療を受けている。たゞくまで「温存」であつて、損傷が治癒するわけではない。筋肉を刺激する電

気治療はしばしば痛みを伴い、1回行くとぐつたりしてそのまま帰つて部屋で寝ていたくなることもある。病院での施療以外に、筋肉強化のための運動、いわゆる筋トレを自宅でも朝晩するよう言われており、風呂上がりものんびりできないし、出勤前は大忙しだ。夜疲れているときなど入浴後の運動の途中で濡れた髪のまま寝てしまい、夜中に起きたら髪の毛が爆発していることもある。

そういう経緯で異国での病院通いが始まり、続いている。せっかくなので誌面をお借りして、台湾で外国人が普通に生活していたら気づかないであろうもうもの一部をご紹介したい。

まず強調したいのは、台湾の健康保険証（こちらでは健康保険カード）。以下、カード）の利便性の高さだ。台湾は国民皆保険制度を採つており、職場を通じて、あるいは個人で保険料を納付することで、ICチップ入りのカードが国民党はもちろん、長期居住の外国人にも支給される。どの病院に行くのもこれ1枚。受付には自動受付機があり、カードを差し込むと受付番号が画面に表示されると同時に、中国語と台湾語の自動音声で「受付完了」とアナウンスされる。順番待ち画面に受付番号が表示されるのは日本の大病院と

同様だが、個人情報に配慮して一部を伏せた氏名も表示されるのでわかりやすい。診察室に入ったあともまずカードを提示して本人確認。診察後の会計も、カードを精算受付機に差し込んで番号をもらい、番号が呼び出されたら窓口で再びカードを提示してお金を払うという流れだ。

個々人のすべての医療履歴もこのカードを通じて蓄積される仕組みだ。特定のシステムを使えば、カードを介して自分の医療履歴や払った医療費を確認することもできる。個人の医療履歴は個人に帰属することがシステムで担保されており、カードがそれを具現化している。日本では病院によってカードと採用する医療システムが異なり、これは歯医者、これは整形外科などと、それぞれの病院のカードを使い分けなければならないが、システムの作り方というか思想が全く異なる。勤務先の日本語学校で使っている初級日本語の例文の中に「これは何のカードですか」「病院のカードです」という会話があるのだが、その都度日台の医療システムの違いを説明しないと学生の混乱を招くことになる。

読者各位の関心が高いであろう医療費は、一般的にとても安い。診療内容や投薬の有無に関係なく、初診を除き診察料

は均一だ。高雄で肩を痛めた当初はまだカードが届いていなかったため診察をためらったという事情があつたが、やつと精算受付機に差し込んで番号をもらおうとしたが、カードが届いていた。事務室でカードが届いていた理由を医師に告げたところ、「それは正解ですね、カードがあれば検査料金も診察料にまるごと含まれますから」と、日本では1回単位であろうMRI検査の予約をすぐに手配してくれた。この病院の診察料は1回180元(1元×約3・7円。当時)だった。700円ぐらいでMRI検査!しかも薬代もこの中に含まれる。医師は「痛み止めも出しておきましょうか」と、どこまでも親切だった。

ただし、診察料は病院のレベルによつて違う。高雄の病院はかなり大きな個人病院だった。細かい規定まで調べられていないが、市中の診療所レベルだと100元というところがある一方、台南で通っている国立病院では570元もする。とは言え、治療の中に物理治療が含まれるために、4週間に6回と規定されている治療の際にも、その都度医療費を払う必要はない。

医療費がわりあい安いからなのか、病院はたくさんの人で「賑わって」いる。台湾の人は家族思いで、たいていは誰か

が付き添つて病院に来るから、病人と同じ数の付き添いがいるであろうことを差し引いても、いつも人が多い。これだけ人が国庫が補助する医療費を使っているのだと思うと、台湾の財政について心配したくなる。実際、薬が診療費に含まれるのをいいことに、余分に薬をほしがれる患者も多いらしい。そのことについて、授業の合間学生たちに疑問を呈したところ「だって健康保険料を払ってるんだから、払った分はもらわないと」と軽く受け流された。ちなみに公共財産に対する意識も同じような考え方のようで、台湾では「道路はオレンジが敷いてやつたんだ(道路を整備する税金を払ったのはオレだ)」という言い方をするらしい。

そんな不届き(?)な考え方ばかりでもないようで、病院にはボランティアがたくさんいる。年配の方や主婦らしき人が、お揃いのベストを着て、車椅子を押したり、勝手がわからない人の案内を買って出たりしている。あまりに数が多くて仕事がないのか、ボランティアどうしておしゃべりに興じていることもあり、数を整理したほうがいいのではないかとも思うが、善意(無償)で社会を支える仕組みは、じつは台湾ではいろいろなところで見られ、行政との線引きや関わる

人たちの意識などについて考えるとまさに興味深い。

かように、病人と付き添い、それにボランティアと、多くの人が集まる病院だが、行くのを嫌がる台湾人はかなり多い。「縁起が悪い」らしいのだ。病気、事故によるけが、ときに死すら扱う病院は、一般的に悪い運気が集まる場所であり、例えば春節などのおめでたい時期には絶対に行つてはならないと考えられている。

とは言え、施療のためには行かねばならぬ。週2回も通ううち担当の治療師や受付嬢とはすっかりおなじみになつた。特に治療師とは、小一時間の施療時間をともにするため、けつこういろいろな話をする。台湾事情について質問することもある。ときには上司の悪口も。日本へ学会出張する際に日本情報を教えたりしたせいか、最近日本語を勉強することにしたようで、興味に合わせて簡単な日本語を教えることもある。ただ、「人を罵る言葉を覚えた」と言わされたときは困った。中国語はじめ外国語はこの手の言葉が豊富な一方で、相手や場によつて表現を変える日本語は、「一発で効く強烈な罵り言葉」が格段に少ないからだ。なんとか用例集を作つて持つて行つてあげた

が、パンチに欠ける感は否めなかつた。この治療師は中堅のベテランで、インター生の指導もしている。一度など私をサンプルに、肩腱板断裂の症状と治療について丁寧にレクチャードして。その間私はされるがままだつたが、台湾の医療の進歩のためと我慢した。そんなわけでときに痛みを伴う治療も、精神的には癒しの時間でもある。

ついでに台湾の医療に奉仕する人々について補足しておきたい。高雄で個人授業を担当していた消化器内科の医師によれば、台湾の医療費全体における人件費の割合は、先進諸国に比べると低いらしい。つまり医師や看護師が相対的に少なくて、台湾の医療費全体における人件費の割合は、先進諸国に比べると低いらしい。つまり医師や看護師が相対的に少なくかつ人件費、つまり給与が安いそうだ。では、日本でよくあるように、医師はよその病院を兼務して収入を増やしているのかと思いきや、そうでもないようだ。台湾では、所属病院以外で診察・診療することが禁じられており、まれに兼任が認められることがあつても、1か所だけらしい。私の主治医は教授クラスで月水の午前しか診察しないのだが、それ以外の時間は、手術や術後の患者の診療、大学での講義や研究、学会出席などのため

のような背景があつてか、収入を増やすには独立、という傾向が医師にはあるようだ。どうりで街を歩くと、大小の病院や診療所をたくさん見かけるわけだ。どこも「元〇〇病院△△科主任医師」といった看板を掲げている。

さて、私にとつての「癒しの時間」もこの先長くはなさそうだ。というのも、損傷個所の状態があまりよくなく、早めの手術を勧められているのだが、全身麻醉の手術で入院数日（日本では数週間）、手術後は完全に患部を固定せねばならず、リハビリにも数か月、状態によつては1年ほどかかると言われているからだ。台湾の1人暮らしでは退院後のケアもままたらないし、仕事をしながら治療を続けるにも無理がある。そこそこ中国語ができるとは言つても、半分以上の会話が台湾語の南部台湾で、手術と入院生活を乗り切れるか自信がない。やはりどこかで区切りをつけて一度日本に帰り、しっかりと治してから次の展開を考えたほうがいいだろう。

せめて最後の施療の日まで、繰り広げられる人間模様を含め、台湾の病院を観察しようと思う。

（2019年3月に執筆、掲載に当たり若干の修正を加えました）



8月24日記

編・訳 上松玲子

画一的な都市の建築物
江蘇省高郵の汪曾祺記念館は鳥鎮にある木心美術館に非常に似ているという指摘を受けた。木心美術館の館長で画家の陳丹青氏は、汪曾祺記念館が真似たのではなく、「画一化」だと説明したものの、記念館に替わって不快感を示した。というのは、「建築芸術の想像力の欠如」ゆえに記念館の重みも独自性も希薄になってしまったからだ。

この数年、著名人効果は地方の観光産業の柱となり、各地に著名人の旧居や記念館が次々と建設されたが、画一化現象は深刻で、現地の歴史や人文的価値とは切り離され、入館料収入という経済効果の方が、文化的効果よりも目立っている。建築芸術の想像力の欠如は、博物館や記念館に限った問題ではなく、中国建築界の弱点だ。

数年前ある人が数えたところ、国内には少なくとも10か所のホワイトハウス、4つの凱旋門、2つのスフィンクス、2つのピラミッド、そしてエッフェル塔があるそうだ。経済が急速に発展し、数十年の間に無数の建築物を造らねばならなかつたが、想像力と美的感覚が欠如していたために、数は増えるが代表的な建築物は少ないのが現実だ。

教育の問題も背景にある。建築学科は技術系の専売になり、経済性や実用性が強調される一方で美学に関する教科は相対的に少ない。都市建設に速さと利益が追及されていることも関係がある。変化の大きさのみが讃えられる中、都市の歴史や文化を留めつつ、なおかつ美しい建築を求めるのは難しい。汪曾祺記念館のコピー疑惑は専門家の判定に委ねるにしても、今後画一化を避け、建築設計の美的水準をどう高めていくのか、人々が考える契機になればと思う。

〔新京報〕2020年6月8日

高齢者施設のブラックリスト

先日、北京市民生局は201

〔中青在線〕2020年6月10日

教育の公平は保たれるか

6月19日、西南交通大学は同

大学建築学院の本科生陳玉鉉が

3教科の成績改ざんにより中国

科学大学修士課程への推薦を受

けた件について報告した。当時

の教務処教務科科長の尹幫旭は

2017年1月、7月、12月に

陳の父親、陳帆から相談を受け

て、成績改ざんの不正操作を行

った。尹は現在その職をとかれ、管理部門から離れ、当該学生は推薦資格を失い、「過失記録」

教育の問題も背景にある。建築学科は技術系の専売になり、経済性や実用性が強調される一方で美学に関する教科は相対的に少ない。都市建設に速さと利益が追及されていることも関係がある。変化の大きさのみが讃えられる中、都市の歴史や文化は、設計審査の段階で環境に対する配慮が足りないからだ。サービススタッフの医療経験が足りないのは、医療と看護の結合という社会のサービス連携の課題だ。家族式関係というのはスタッフと利用者の間が対等でないことを示している。これらの問題を解決できなければ、高齢者サービス事業の産業としての未来はない。

南交通大学の教師で、尹の大学時代の教師、博士課程では先輩後輩の間柄だった。現在は大学院生の指導教官の資格を取り消されている。

こうした決着についてネットでは痛くも痒くもない懲罰だという批判がある。実のところ、より厳しい処罰は規定になく、西南交通大学が今回に独自の判断で課した処罰である。陳帆の行為は、西南交通大学の規定では重大とはされないが、影響の大きさを考慮し、規律処分や公表を行い、陳帆は資格制限や停止ではなく取消となつた。

しかし、一般の人々からみれば、これは公正正義に関わる不正だ。しかも学校内部の教職員が結託して行つたとあれば、極めて重大で悪質である。しかし、処分内容を見る限り、大学のこの事案への認識が「重大でないが影響大」と「やや重大で影響大」の間で揺れているのがわかる。その結果、不正の成果がリストをはるかに上回るという事態を招いている。成功すれば、

友人の誰かを蹴落として有名校の大学院生になれる。失敗しても父親はたった3年の指導停止、本人はいずれ消える過失記録处分では、なんと割のいい商売ではないか。

教育部など7部門は2019年に提出した「新時代の師徳の道徳形成推進に関する意見」の中では、世間の反響も大きく、社会に悪い影響を与える問題については、特に厳しく調査すべきであると述べている。大学の教師が大学院推薦をめぐる不正に関わったという問題は深く考へるに値する問題である。さらに厳しい処分などを考えるのも1つの方向といえるであろう。

(『南方都市报』2020年6月21日)

ばらまかれる汚染

近年、国は環境保護を極めて重視している。GDPを崇めるあまり環境を蔑ろにしたツケを返さなければならないのだ。

しかし、なお一部の汚染物質排出企業は監督官庁とゲリラ戦を繰り広げ、汚染物質を移転す

る方法で取締りを逃れている。先日重慶市が摘発したのは長江の一級支流に30余トンの危険な廃棄物を投棄し、3~4kmにわたる地域を汚染した事案だ。また、河北省邢台市でも1年以上にわたり違法に農薬を生産し、3414トンの強酸の廃液を7つの県(区)をまたがる13か所中で、世間の反響も大きく、社会に悪い影響を与える問題につ

いては、特に厳しく調査すべきであると述べている。大学の教師が大学院推薦をめぐる不正に関わったという問題は深く考へるに値する問題である。さらに厳しい処分などを考えるのも1つの方向といえるであろう。

(『南方都市报』2020年6月21日)

企業のこうした行為は、環境保護対策の負担を逃れ利益の最大化を図るために、企業の原料の購入から製品の販売に至るまでの段階ごとに監視監督を行えば、最終局面に至る前にもっと早く問題を発見できるはずだ、と業界関係者はいう。

(『羊城晚报』2020年6月22日)

農村振興の新しいモデル

農村の振興は都市部の拡大や都市改革と並行して進めるべき次なる中国社会改革と発展方式の転換戦略である。しかし、現

在山奥の村に当世風のお洒落な民宿が立ち並ぶ状況には驚く。

農村の振興は都市目線で一気に農村に押し寄せるのではなく、

このように地域の文化も顧みない開発を、美しい農村の創造といふのは曲解のように思う。ある時期から始まつた農村の文化やしきたりから乖離した芸術の流入は決して農村の文化景観を改善することはなかつた。逆に、都市文化の移植や思想の押しつけが激化している。つまり、農村は永遠に村民のものであつて芸術家やキュレーターのための舞台ではないのだ。

中国芸術の郷の建設の第一人者、渠岩教授は、山西省の許村に続いて広東省順徳で「青田モデル」の理念を実践した。中央テレビの番組で紹介された村の姿は、伝統的な景観や風俗を残し、村の文化が肯定されている。渠岩氏の「青田モデル」は歴史、政治、経済、信仰、習俗などそれぞれにつき振興の青写真を描く。故郷を修復し、現代生活と連結し、村民の生活を再建する。その結果多くの人が村に戻つてくれば振興につながる。

持続可能な発展システムを作り上げるべきだ。中国には古代から「天人合一」の自然観、つまり自然の中で素朴に暮らすという文明思想があった。芸術の郷の建設で農村を振興しようとするなら、豊かな伝統文化こそ重要な資源であり原点である。

（『新民晚报』2020年7月12日）

8月31日記

大学の気骨を見せよ

先日、教育部社会科学司は、某研究機構が発表した2020年版「中国哲学社会科学分野の最も影響力のある学者ランキンゴー」について同部とは何の関係もなく、また格付けや発表の権限も与えていないと表明し、各大学に対し、ランキングの妄信と宣伝をやめ、学術的気風の確立に努めようと呼びかけた。

多くの大学がランキングに入った自校の教員の名前や人数を公式ホームページで紹介しており、教育部の発信はちょうどどこ

れに合わせて、妄信と宣伝を戒めただけでなく、ランキング機構や大学の利益主義の醜さを明らかにしたのである。

大学は大学としての基本姿勢を貫く態度をとるべきで、出所も専門性もわからないランキンゴーに、宣伝になるからといって飛びつくというのはどうだろうか。このような気風は助長すべきではない。

（『光明日报』2020年7月20日）

農村の高齢者福祉を

今年の全国人民代表大会でも全国政治協商會議でも、多くの代表や委員から農民の定年制を推進し、高齢者福祉サービスの多角化を図るべきだという意見が出された。

改革開放政策の最前線を走ってきた広東省の農村はどうか。暨南大学経済・社会研究院が行う広東千村調査第2次調査の結果、60歳以上の23%が子孫が外地で働く「留守老人」である

けなかつた60歳以上の高齢者も半数に上る。近くで世話をしてくれる子もなく、精神的な健康状態も懸念される。

調査では、「留守老人」の子女の帰省頻度について、41%が不定期、1か月1度が約30%、3か月に1度が11%、4%は1度もないということだ。多くの高齢者は学歴が低く、子どもの助けがないため医療保険制度や年金保険など享受できるはずの福利が受けられていないと報告書の執筆者である李書娟氏はい

う。

調査チームは農村の社会保障、とりわけ高齢者福祉の問題は事実上貧困問題だと捉えている。しかし現在の制度は全体像がなく、繋ぎりや連携がとれていない。農村の高齢者サービスをさらに開放し、社会資本の参入を促すことはできないだろうか。

7月13日北京市民生局が意見聴取のため発表した「北京市高齢者サービス人材の養成研修実施方針草案」には、北京の学校を卒業後1年内に市内の高齢者サービス機構に就職した場合、数万元の奨励金を出すという内容がある。大学本科卒業生は6万元、専科高等職業学校卒は5万元、中等職業学校卒は4万元という。

介護職は待遇の悪さ、労働のきつさ、社会的地位の低さに加え、専門性が弱く前途有望とは言えない。北京市の高齢者福祉専攻の学生のうち、卒業後老人福祉の分野に就職するのは30%にすぎないのだ。

介護従事者に獎励を

（『羊城晚报』2020年7月20日）

（『中国農業雑誌』2020年7月26日）

に達し、総人口の18%を占める。中国発展基金の予測では2022年頃に65歳以上の人口が総人口の14%を占めるようになる

といふが、北京師範大学中国公益研究院の2017年の研究では数百万から1千万人の人手が不足しているという。

あなたの顔が無断で

今日、顔認証による身分確認や本人認証が当たり前になつた。

便利だが、リスクもあることを知つておくべきだ。現在インター

ネットで顔情報データが1件0・5元で売買され、35元のアプリ

を使えば証明写真から顔認証に使える動画を作成できるそうだ。

先頃、湖北省である家政婦が捕まつた。高齢者に写真をとつてあげるといって、瞬きさせたり、口を開けさせたり、顎かせたりして、顔認証を突破し口座から22万元を自分に振り込ませた疑いだ。多くの場面で使われるようになつた顔認証は、技術も日進月歩で今では単純な静止画像は不正に使えない。しかし、ブラック産業の技術もそれに合わせて進歩している。

情報の漏洩や乱用の防止のためには、まず関連法規の整備が必要だ。法に基づいて、インター

ネット管理者による監督管理の強化、顔認証システム技術における多重認証の採用などが求め

られる。

『半月談』2020年第13期7月21日

都市の持続的発展のために

1981年以来、40年の発展を経て、中国の都市面積は8・3倍になった。同時に膨大な老朽化したビルが出現した。都市

改造の必要性は日増しに明確になつてている。アメリカが都市化率64%に迫る1949年に、日本が71%だった1969年に再開発に関わる法律を成立させた

よう、我が国もそのレベルに達しようという今日、旧市街だけではなく、基礎設備建設への投資を増やす時期にきているといえる。都市市民の豊かな生活だけではなく、国の経済の安定的持続的な発展に寄与するだろう。

『北京日報』2020年7月27日

国内育ちの留学生

我が国は厳しい受験競争から逃れるために、中国で育ち、教育を受けたにも関わらず、政策の穴を利用し留学生の身分になって様々な政策上の優遇を受け中

のがいる。これはこの数年激化している「国際受験移民」（原文：国際高考移民）現象として厳しい批判をあびてている。今年

の全国人民代表大会、全国政協会議会議会期中、全国政治協商會議委員で新東宝教育科学技術集団の俞敏洪董事長が「外国留学生受入れ政策の整備と国際受

験移民防止についての建議」を提出し大きな論議を呼んでいる。

華僑生、香港、マカオ、台湾のように、我が国もそのレベルに達しようという今日、旧市街だけではなく、基礎設備建設への投資を増やす時期にきているといえる。都市市民の豊かな生活だけではなく、国の経済の安定的持続的な発展に寄与するだろう。

『北京日報』2020年7月27日

俞董事長はじめ業界関係者は外国人留学生にも学力基準を定めるべきだという。外国籍の学生に対する募集時の統一テストは現状、漢語水平考試HSKのみで学力が図れない。これも親たちに国際受験移民という選択をさせる要因になっている。

国際受験移民は、短期的にも教育の公平を脅かすが、長期的にも卒業後「海帰」（海外帰り）として就職の際優遇を受けるだろう。これは苦労して狭き門を競ってきた国内の学生にとっては明らかに不公平と映るだろう。

留学生の学力試験制度、その基準、内容、運用方式も整備し、大学の格に応じ、基準も高くあるべきだ。中国政府奨学金を支給される留学生の学力が相応のものであるかどうか各大學は監督評価、報告をすべきである。

『半月談』2020年第4期7月30日

られるのだ。21世紀教育研究院の熊内奇副院长によれば、それらの業者のほとんどが合法的であり、受験移民の問題は監督管理の問題ではなく、制度設計上の問題だと指摘、今後も「華僑生聯考」を継続しようとするなら、華僑生としての出願について審査を厳しくするべきだといふ。

俞董事長はじめ業界関係者は外国人留学生にも学力基準を定めるべきだという。外国籍の学生に対する募集時の統一テストは現状、漢語水平考試HSKのみで学力が図れない。これも親たちに国際受験移民という選択をさせる要因になっている。

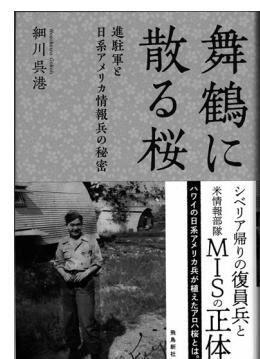
留学生の学力試験制度、その基準、内容、運用方式も整備し、大学の格に応じ、基準も高くあるべきだ。中国政府奨学金を支給される留学生の学力が相応のものであるかどうか各大學は監督評価、報告をすべきである。

自著紹介

『舞鶴に散る桜』 —進駐軍と日系アメリカ情報兵の秘密—

飛鳥新社（1818円+税）

細川呉港（会員）



焼け跡で、多くの日本人が家もなく、食べる物も不自由していたとき、舞鶴の丘の上にたくさん桜の苗木を植えたのは誰か？43年間名乗り出なかったハワイ出身の日系2世のアメリカ兵とは――。

ハワイのサトウキビ農場で育った移民の子、フジオ高木は、15歳のとき、親は下の5人の子どもを連れて日本の岩国に帰っています。昭和8年でした。ひとり残されたフジオは高校を出て、白人の家のハウスボーリングながら、機械工となり真珠湾の珊瑚の海を掘る浚渫船の乗組員として働きます。

そして、運命の昭和16年12月7日、中湾で作業中に日本の奇襲攻撃が始まるのです。さうに近くに日本軍の攻撃機が不時着。

の日からハワイの日系人は、窮地に立たされるのです。多くの日本人のリーダーが、収容所に收

もなく、食べる物も不自由していました。舞鶴の丘の上にたくさんの桜の苗木を植えたのは誰か？43年間名乗り出なかったハワイ出身の日系2世のアメリカ兵とは――。

フジオは上官のアメリカ兵とボートに乗って助けに行きますが、目の前で若いパイロットは自決してしまいました。持ち帰ったのはジャケットのみ。

その後フジオはアメリカ軍に応募。4回目にしてやっと採用され、アメリカ本土で日本語の特訓と、情報部隊として訓練を受け、グアム島に配属。日本軍の暗号の解読や捕虜の日記や、記録の翻訳。戦闘が終わるために近づくと、島の洞窟にいた日本兵に投降を呼びかけます。太平洋戦争を通して、日本語のわかる日系の情報部隊がどのようにアメリカ軍に貢献したか、今までほとん

ど語られていませんでした。このたびその一部が明らかになります。情報部隊M I Sとはちょうど日本軍の特務機関に当たります。全部で6千人以上いたと言われています。（他の言語部隊も含む）。

マッカーサーの日本上陸前に、フジオは厚木基地に降りたちます。その後広島や日本各地を視察し最初は岡山に駐屯。私服を着て民情を調査します。それが情報部隊の役目でした。やがて、舞鶴に。舞鶴には言わずと知れた、シベリアから多くの復員兵が帰ってきます。その中に、ソ連の収容所で共産党の洗礼を受け、特別な任務を受けて日本に帰り、アメリカ軍の基地の調査や、あるいは鉄道爆破や騒乱を起こそうとする者、また過激な労働運動に走る人間はいないか、を調べるわけです。もう1つのグループは、ソ連の内情の聞き取りをしました。すでにソ連は、スターリンによる肃清だけではなく、国境に鉄のカーテンを張って内部で何が行われているか全くわからなくなっていました。同じ連合国であつたにもかかわらず、冷戦はもう始まつていたのです。

このとき、M I Sが日本の復員兵から聞いた情報で、ソ連の

多くの町の詳細な地図ができたといいます。また彼らはソ連の水爆実験の有無も調べました。それらの情報の多くは、秘密に語られ始めたのです。復員兵からは外部に語られませんでしたが、戦争後50年以上たち、少しずつ強制労働させられた金山や、炭鉱や、レンガ工場で不思議な話もたくさんありました。今回それらのお話が初めて明らかになります。

ある日、シベリアから帰つて来る復員兵の中に、フジオの弟がいました。15歳のとき、ハワイで別れた8歳の末の弟でした。奇跡ともいって会い出ました。秀雄も15歳で、満蒙開拓義勇軍に入り、嫩江で終戦を迎えるベリアに抑留されていました。弟は片目を失っていました。

フジオは休暇をもらって、岩国の人親に会いに行きます。きちんと制服を着て、ジープで乗農家でした。空襲からは免れていましたが、両親も喜びます。

フジオは貯金通帳を出し、両親に渡そうとします。何しろハワイの日本人はお金を溜めることが運命づけられているのですから、フジオも機械工として一生懸命お金を溜めていたのです。

しかし母親は拒否します。「いくら息子の溜めた金だからと言っても、アメリカ軍の金は受け取れん」と。それには深いわけがあつたのですが、フジオはとても悲みました。15歳からひとりでサトウキビ畑の中で育つたものですから――。お金をして、両親に喜んでもらいたかったのです。肉親の愛に飢えていたのかもしれません。

「フジオ、お前、進駐軍だからと言つて威張るんじゃないよ。日本人につらく当たつたら承知しないよ。そんな金があるんだつり付けるのです。岩国の郊外の農家でした。空襲からは免れていましたが、両親も喜びます。

フジオは桜を選んだのです。終戦から20年たち、30年たつて、舞鶴の丘の上で、桜は大きくなり、舞鶴の人たちは花見に押し寄せるようになりました。

その頃になって、初めて、「この桜を植えた人は誰だ」ということになつたのです。舞鶴市は

ちをかけるように言いました。
朝鮮戦争が始まろうとしていました。舞鶴に帰つたフジオは今、何をしたら日本人のためになるか考えました。焼け跡で、人々は苦しんでいました。日本

市を上げて桜を寄付をした人を探し始めました。

その桜を植えた人探しが、この本の主たるテーマです。フジオが育ったハワイのサトウキビ畑から、太平洋戦争、そして終戦かく。やがて、時代は移り、ハワイには、日本人はサトウキビ刈りには行かなくて、多くの観光客が「お金を持って」観光やレジャーで行くようになります。いまはかつてのサトウキビ畑のランテーションは1つもありません。戦中から戦後、フジオ高木の生きた時代を、彼の体験をたどりながら語ります。

これには今までほとんど語られないか、と言つものもいましたが、フジオは桜を選んだのです。終戦から20年たち、30年たつて、舞鶴の丘の上で、桜は大きくなり、舞鶴の人たちは花見に押し寄せるようになりました。

戦後のシンチューングンの時代の日本人女性とアメリカ兵の関係が具体的に書かれています。

興安丸の写真や、引揚記念館の舞鶴港の桟橋の模型図なども掲載。

中央会通信

◆善隣誌特別号(9月号)発行

* 喜寿（昭和19年生まれの方）
8名：西忠雄氏、河合弘之氏、阿部
靖夫氏、細川呉港氏、大類善啓
氏、香田忠維氏
(事務局長 藤沼弘一)

「善隣」は、新型コロナ禍の影響で、本年4月号から8月号まで5か月間休刊していたが、特別号（9月号）としてお届けすることができた。この間、広報委員会の関係者は猛暑の中、原稿整理から始まって初校、再校、校了まで時間との闘いでした。

◆長寿祝賀会

9月10日に予定していた「長寿祝賀会」は安全第一の観点から残念ながら中止とし、「記念品贈呈」のみとさせていただいた。

なお、対象者は次の通りです。

* 白寿（大正11年生まれの方）
1名：市川英雄氏

* 米寿（昭和8年生まれの方）

8名：大井恵美子氏、橋本秀樹氏、成田正路氏、四塚勝氏、古海建一氏、國光史朗氏、武内優氏、近藤直利氏

同好会だより

本年12月末まで当館での活動はお休みします。

河合浩孝氏（86歳）
令和2年7月31日逝去
謹んで哀悼の意を表します

会員だより

◎訃報

みんなの写真館

アヤンフィアの壁画

（表紙）

この写真は、昨年末、イスタンブールの世界遺産、アヤンフィアの中で撮影した壁画です。アヤンフィアは1500年の歴史がある。532年に起った反乱によって焼失した2代目アヤンフィア聖堂を、537年ビザンツ帝国のユスティニアヌス一世が再建したものです。高さ約55m、直径約31mもある巨大ドームを有したバシリカ式聖堂は、6世紀の建築技術からすると建物の壮大さ、構造とともに奇跡とされ、ビザンツ建築の最高傑作と評されました。約500年続いたモスクとしての歴史に終止符が打たれたのは、20世紀になってからです。2020年7月10日、トルコのエルドアン大統領はアヤンフィアを再びモスクに戻すと決定。（姜晋如）

大学を訪ね、学生や先生と語り、校風やどんな人材を育てるのかを知るのも楽しいものだ。（佐藤嘉信）

清華大学を訪ねて（表4上）

清華大学、中国のMITともいわれ、理系が突出、日本からも100人ほど留学生しており、起業する学生も多い。キャンパスは北京、清代皇帝の「御庭旧跡」であり、フォーブス誌に世界で最も美しいキャンパスにアジアで唯一のランクイン。かつて勤務したメーカー創業者の寄付講座「企業は社会の公器」があり、元同僚の王さんの母校、今は技術部門トップになった王さんから大学時代の話を聞いて

おり、よけいに親近感を覚えた。

清華大学の校訓は「自強不息、厚德載物」、周易の「天行健、君子以自強不息、地勢坤、君子以厚德載物」からきており「天の運航が順序正しいように、君子は自ら向上させることを怠らない」大

地があらゆる生物を育むように、君子は人徳を高く持ち義務を成し遂げる」意味のようだ。

大学を訪ね、学生や先生と語り、校風やどんな人材を育てるのかを知るのも楽しいものだ。（佐藤嘉信）

信濃町駅の燕

（表4下）

JR信濃町駅の改札を出たフロアの天井に点在する防犯カメラの上に、燕が巣を作っている。昨年からのことだ。

毎週1回通る駅なのだが、今年は「新型冠状ウイルス」の影響で久しぶりに来た8月5日、元気みなを見つけてこのご時世にとてもうれしかった。昨年の写真の日付を見てみると7月17日となっているので、今年は少し遅い気がする。7月いっぱいの長梅雨だったせいか。それでも、今年も子燕たちは、数日後に元気に巣立つたといつ。その間、団いを作り「燕

が巣を作っています！温かい目でお見守りください」の張り紙をして、見守ってくれている信濃町駅の方々に感謝！そこを通る大勢の人たち、気付く人はかなり少ないとだけば、ほほの。（原田克子）

2020年10月の行事予定

7日（水）13：00 「自宅で俳句会」

兼題「秋深し、牙」および当季雑詠から5句を投句（9月末までに）

10月の会議予定

1日（木）14：00 講演委員会 (ZOOM会議)	15日（木） <u>13：00</u> 理事会（第8回）
8日（木）13：00 監事会	<u>15日（木）15：00</u> 広報委員会

※下線は通常日程に変更あり。

みんなの写真館



ISSN 0386-0345
二〇一〇年(令和二年)十月一日・毎月一日発行

「善隣」第五一五号（通巻七八一）



発行所
〒100-0004
一般社団法人
国際善隣協会
電話 03-3573-3051
代表会員
東京都港区新橋一丁目五番
善隣会